

統計行事

市町村

（六月）

綿織物産額調 三日限報告
絹織物及絹織交織物産額調 五日限報告
人口動態調査票 五日限報告
桑苗 十五日限報告
春蠶豫想收購高 二十日限報告

（七月）

綿織物産額調（特定町村） 三日限報告
絹織物及絹織交織物産額調（同） 五日限報告
人口動態調査票 五日限報告
物價（特定町村） 五日限報告
賃金（同） 五日限報告
麥 十五日限報告
果樹苗 同
茶畑 同

茨城統計（五月號目次）

◇表紙……西山莊

◇口繪……大臣賞傳達式と大臣賞杯……學事統計査閲……

水戸調査員の實地指導……豊岡・林・白鳥各村の統計視察員

時代と我が統計（巻頭言）……………（一）

農作物統計論……………農林省統計官 長畑健二（二）

統計模範町村訪問記……………一 記者（三）

奥久慈の山田村……………（三）

縣西南の名邑水海道……………（八）

統計調査員座談會……………（二）

▽勸農四季の歌……………染谷末畝（三）

實務統計調査の采……………（四）

輝く大臣賞——優越を誇る茨城の統計……………（三）

▽米の榮養價值……………（五）

各地雜信……………（四）

躍進せる昨年の水産界……………（四）

▽優良町村視察……………（四）

縣下の養畜調べ……………（四）

全國統計關係者大會……………（六）

勞働統計實地調査……………（五）

▽統計ますく重大……………（五）

超スピードの合同視察……………須田生（五）

小票調査實施當時の思ひ出……………飯田榮助（五）

我が村の統計調査員……………城南生（五）

町村統計主任異動……………（五）

町村統計調査員異動……………（五）

寄贈圖書……………（五）

短歌……………丹四郎選（六）

俳句……………前田猶春選（六）

川柳……………山中緋郎選（六）

編輯後記……………富岡如夢（六）

カット……………大關やゑ子（六）

統計調査員

（六月）

桑畑 同
春蠶 同
鷄 同
鵞 同
鰾粉 同
緑肥用作物 未日限報告

農産物春季調査の集計報告

春蠶豫想收購高 十日限報告

春蠶票提出 十七日限報告

家畜調査準備並實施 二十日限報告

家畜調査準備並實施 三十日迄

（七月）

家畜調査票提出 五日限

夏季作付反別調査準備並實施

七月一日より

初夏の調べ



茨城統計月號

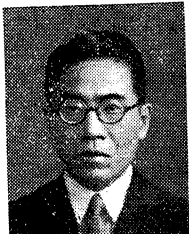
時代と我が統計

近頃「時代だなあ」といふ言葉が何かによく用ひられる、蓋し文物、風習、思想等あらゆる社會の物象が、時代時勢の變遷に引ずられて行くの謂ひを約言した一種の時代語であるが、我が統計界においては特に此の感を深うする。

昭和三年縣令を以て農林統計報告規則を改正したところ、喧々囂々として異論沸騰し、就中、反對の急先鋒をなしたのは那珂、久慈、多賀の珂北三郡で、遂には三郡聯合の町村長會を開き、現在の定員と經費とを以てしては到底完全になし得べきでないとか、本業の傍らやるのだから、そんな七六ヶ底縣令に示すが如き精密なる調査をなし能はざるは言を贅せず「調査員の退職者相次ぎ遂に調査の機關を失ふに至る」など決議の大文章を眞ッ向にかざして威丈高に縣へ迫つたものである。

是れに對して縣では、諄々として時勢を説き、正確なる統計の要を教へ、全國一齊に農事センサスを施行せんとするの計畫すらあり、改正の寔に時宜に適したる所以に及ぼし、凡そ事物の進歩改善を圖らんには困難は覺悟の上でなければ目的は達し得ぬ、初め萬難を排して是に當れば次年からは必ず容易に調査が出来ることを説明した。

無論、縣のとつた親切な態度が啓蒙を速かならしめたであらうが、斯くして猛烈に反對した珂北が一たび悟りを開いて猛然奮ひ起つた今日はどうか、爾來漸く數年にしかならぬのに、その珂北が斷然群を抜いて本縣統計界の雄と稱せられてゐる、心から「時代だなあ」と叫びたくなる、と同時に正に建設途上にある幾多の町村に對し、之を見倣うて折角統計の向上發展に精進せられんことを切望してやまない。



(官計統畑長)

農作物統計論 [三]

農林省統計官 長 畑 健 二

第四節 我國に於ける豫想收穫高調査の實狀

我國内地に於て、現在收穫豫想を調査してゐる農作物は米、麥及菜種(作柄のみ)である。米に付ては其の重要性に鑑み、年三回之を調査して居る。即ち第一回は八月十五日現在、第二回は九月二十日現在第三回は十月末日現在である。麥に付ては大麥、小麥、裸麥に付て各一回豫想收穫高を、菜種に就いては作柄を一回何れも調査してゐる。

麥及菜種は生育時期の關係上地方に依つて、其の調査時期を異にする。即ち

三府三十五縣

麥豫想收穫高及ナタネ作柄

五月二十日現在

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野

麥豫想收穫高

六月十日現在

北海道

麥豫想收穫高

七月一日現在

北海道、青森、岩手、宮城、長野、秋田、山形、福島、新潟

ナタネ作柄

七月一日現在

以下米を主として豫想の問題を取扱つて見る。

而して米に付ては、第一回の調査は之を特に水稻作況と呼び、水稻のみに就いて調査することゝし、然も其の作柄のみを調査することゝしてゐる。第二回目の調査は之を米第一回豫想收穫高調査と呼び、九月二十日現在を以て其の年收穫し得べき米の收穫高を調査することゝしてゐる。第三回目の調査は十月末日現在を以て第二回と同様の調査を爲し、之を米第二回豫想收穫高調査と呼んで居る。

一、水稻作況調査

八月十五日現在を以つて之を調査するのである。本調査に於ては作付反別を考慮せず、單に其の年の水稻の作柄のみを調査して、之を一定の方法を以て表示することにしてゐる。

作柄の善惡を表示する方法には前述の様に色々の方法がある譯であるが、水稻作況調査に於て使用して居る方法は直接數字に依らず言葉に依る方法であつて、之を五階級に分けて表示することにしてゐる。

良 普通作況に比し增收五分を超える見込の場合

稍良 普通作況に比し增收五分以内の見込の場合

普通 普通作況の見込の場合

稍不良 普通作況に比し減收五分以内の見込の場合

不良 普通作況に比し減收五分を超える見込の場合

右の階級分類に於て基準となるものは普通作況である。然るに本調査に於ける普通とは前五ヶ年間に於ける中庸の作柄を謂ふと規定せられて居るのであるが、この「中庸の作柄を謂ふ」といふ表現方法は頗る曖昧であつて、統計調査の基準として斯る言葉を用ふことは餘り感服出來ない、即ち茲に謂ふ中庸の作柄とは前五ヶ年の反當收量の

算術平均と謂ふ意味か、前五ヶ年の反當收量の中位數と謂ふことか、それとも其の外の何等かの意味を有するのかわれとも決し難い。

作況とは作付反別の増減に關せず單に作柄の良否の狀況を謂ふと規定してある所を以て見れば、作付反別の増減に依る收穫の増減は茲に一應考慮の外に置かれて居ること明であつて、此の點は後に調査せられる豫想收穫高と趣を異にする所である。即ち豫想收穫高調査に於ては作付反別を考察して、全收穫量を調査するに對し、作況調査に於ては單なる作柄を表示するに過ぎないのであるから作付面積とは無關係である。

而して農作物に於ては屢々「平年作」なる語を使用するのであるが、此の語は常識的にはわかつた言葉の様であるが、よく考へて見るとあまりはつきりした概念ではない。普通に農家等が使用する場合に於ける「平年作」なる概念は數量的には相當の幅を持つた概念であつて過去五ヶ年の反當收量の算術平均などの概念とは異なる所がある。

従つて通俗に農家が平年作幾何と唱へる場合には、多くの場合、何俵と呼び、俵を單位とすることが多い様であるが、この事は數學的には結局四斗未滿の端數は問題にせぬことであつて、我々が五ヶ年平均反當收量を算術的に算出して何石何斗何升何合と呼ぶのとは大分趣を異にする。元來我々が經驗上から得る概念といふものは、屢々同一事を繰返すことに依つて、始めて、其れが「普通」と謂ふものになるのである。統計學に謂ふモードが「普通」となる場合が多い。水田の收量にしても、之を「合」又は「升」などの小單位まで測定する限り、如何なる水田も毎年同一收量の繰返さるゝことはあるまい。従つて何石何斗何升何合など、謂ふこまかい數字に依る平年作は經驗上得られるものでない。之に反し、何俵と謂ふ程度の極く大雑把なもの（數學的には俵を單位とし、俵に滿たないものは四捨五入することを意味する）であれば、各田に固有のものが有り得る理であり又それは年に依つて心ずしも常に變化するものではない。

十年の中間一俵數の年が五年も六年も若くは七年も八年も存在するに違ひない。大体、我國の水田の生産力は普通通二石内外であるから先づ五俵と謂ふ所であるが、五俵の收穫ある水田が四俵となり、六俵となることは勿論あるにしても、それがそう屢々起り得るものではない。茲に最も屢々收穫さるゝ俵數が經驗上体得せられる。統計學の

言葉借りれば並數「モード」が得らるゝのである。これを普通に平年作と農家は觀念するのではなからうか。

併し統計學的な乃至は概念的な平年作は右のものとは多少異なる。我國に於て公に採用せられてゐる平年作の概念は明治以降に於ても、屢々變遷してゐる。

明治二十三年農商務大臣より北海道廳及府縣に對して發せられた訓令には

「米麥作柄當省へ報告ノ節ハ前期十箇年ノ平均數ヲ以テ後期十箇年間ノ平年作ト定メ其ノ増減歩合ハ百分率ヲ用フベシ

但明治二十三年ヨリ向フ十箇年間ハ明治十三年ヨリ明治二十二年ニ至ル十箇年間收穫高ノ平均數ヲ取り自後毎期遞次比例ニ據ルヘシ」

としたのである。

然るに明治廿七年に於て右の取扱を改正して「最近五箇年ノ平均ヲ以テ平年ノ收穫ト見做ス」ことにしたのである其の後明治三十七年に於て更に之を改正して「平年トハ最近七箇年中ニ於テ最豐最凶ノ二箇年ヲ除キ残り五箇年ヲ平均シタルモノナリ」としたのである。

其の後大正十年農商務統計報告規則の制定に當つて水稻作況表の中に「平年作況トハ最近五箇年間ニ於ケル普通作柄ヲ謂フ」と規定したのである。併し同規則の米第一回豫想收穫高表中には「平年收穫高トハ最近七箇年中ニ於テ最多、最少ノ二箇年ヲ除キ残り五箇年ノ收穫高ヲ平均シタルモノヲ謂フ」とあり平年作況と平年收穫高とを混同して居る。

其の後大正十四年農林、商工兩省分離の結果に依る農林省統計報告規則の制定に當つては水稻作況表中「平年作況」とあるを「普通作況」と改め「普通作柄ヲ謂フ」とあるを「中庸ノ作柄ヲ謂フ」と改めたのである。従つて現在に於ては平年作と謂ふ言葉は農林省統計の上では公には使はれて居らないのであるが、日常用語としては絶えず使用せ

られて居る。而して其の内容は大体に於て前五ヶ年平均數を以て平年作として居るもの、様である。其の最近の例としては「昭和九年法律第五十二號凶作地ニ對スル政府所有米穀ノ臨時交付ニ關スル法律」第一條に於て「政府ハ市町村ニシテ其ノ區域内ニ於テ昭和九年產米ノ收穫高ガ平年作ノ半ニ達セズ」云々と規定しこの場合の平年作を昭和四年乃至同八年間の五ヶ年平均收穫高を以て之に充てたことを擧げることが出来る。

斯くの如く一般に屢々使用される平年作なる語は其の内容が從來屢々變遷して居り、現今の内容も決して理想的なものではないが、此の點の詳しいことは別の機會に譲る。

兎に角水稻作況調査に於ける作柄表示の基準をなすものは現在の所「前五箇年に於ける中庸の作柄」と規定されて居るのであるから、解釋を一定して之に據らざるを得ない次第であるが未だ必ずしも其の取扱は一定せられて居らぬ。

本調査に於ては「普通作況に比し増收、五分を超える見込の場合」を良とし、同じく減收、五分を超える見込の場合を不良とするとしてあるが、現在の我米作に於ける實情から判斷すれば、良又は不良の範圍が餘りにも廣すぎる。

五分を超えると云へば六分も三割も同じく五分を超えるものであるが、其の内容は六分と三割とでは非常な相違である。

一般に豊作の場合には平年作より三割、四割も増收することは考へられぬにしても、不作に就いては四割五割の減收も部分的には起り得るのみならず、甚だしきは收穫皆無即ち十割の減收も起り得るのである。斯くの如き量的差異の著しきものに就いて之を一律に「不良」として取扱ふことは餘り感心せぬ。

又斯る不良の如き質的表現は之を集計することが技術的に不可能に屬する。良が十と稍良が十五、普通が五、稍不良が十ある場合に之を集計して全体を表現する結果を得ることは殆んど不可能に屬する。従つて斯る方法に依る限り、調査員の報告を市町村長が纏める場合に於ても、市町村長の報告を道府縣に於て取纏める場合に於ても、又道府縣の報告を國に於て取纏める場合に於ても皆一樣に右の難問に逢着する。此の水稻作況の調査が統計として始めて調査せられるに至つたのは大正六年からである

が、同十二年迄は國に於て道府縣の報告を公表する場合に全國の總評を決定せず、單に道府縣の報告のみを羅列するに止めたのであるが、右は結局之を取纏める方法に苦しんだ結果であらうと思ふ。水稻作況として、全國の總評を公表する様になつたのは大正十三年以來のことであるが、此の發表の結果は第一表最下段の通りである。

第一表 實收高より觀たる其の年の水稻作況と八月十五日現在調査の水稻作況

年次	前五箇年平均 水稻段當收量	其ノ年段當收量	水稻一段歩收穫高ヨリ觀タル其ノ年作柄 前五箇年平均ニ對スル%	作況	八月十五日現在 水稻作況
大正十三年	一・九二五	一・八六九	九七・〇九%	(稍不良)	稍良
同十四年	一・九〇〇	一・九二六	一〇一・三三	(稍良)	稍良
昭和元年	一・八七四	一・七九九	九六・〇〇	(稍不良)	稍良
全二年	一・八七五	一・九九三	一〇六・二九	(良)	稍良
同三年	一・八七七	一・九二三	一〇二・四五	(稍良)	普通
同四年	一・九〇二	一・九〇八	一〇〇・三三	(普通)	稍良
同五年	一・九一〇	二・一〇二	一一〇・〇五	(良)	稍良
同六年	一・九四五	一・七三三	八九・一〇	(不良)	稍不良
同七年	一・九三二	一・八九〇	九七・八三	(稍不良)	稍良
同八年	一・九一一	二・二八四	一一九・五二	(良)	稍良
同九年	一・九八三	一・六七〇	八四・二二	(不良)	稍不良
同十年	一・九三六	一・八二八	九四・五〇	(不良)	普通

右の表を見て誰しも直に感ずることは、

(一)稍良の現れた年が著く多いこと(十二ヶ年の中七ヶ年即ち其の出現率五八%)

(二) 稍不良或は普通は出現するも其の回數が著しく少いこと (十二ヶ年の中稍不良、普通共各二ヶ年即ち其の出現率一七%)

(三) 良若くは不良は一度も出現せざること

等であるが、作況の階級を五階級に設けながら、其の出現が著しく一方に偏するといふことは、甚だ面白い現象である。

實際に作況が茲十三年は偏して居たのだと謂ふ證明が外の方面から證明でも出来れば格別であるが、然らざる限り此の點は充分研究の餘地があると思ふ。收穫高から見た水稻作況では良が二ケ年、稍良が二ケ年、普通が一ケ年、稍不良が二ケ年、不良が三ケ年で大体平均に分布して居るのであるから、作況ばかりが一方に偏することは、合點が行かない。何か農林省に於ける集計技術上に缺陷でもありはしないかといふ疑が出ないとも限らないが、此の點は道府縣の作況を調べて見ても、やはり同じ様な傾向があるので、もつと調査の根本に原因があるのではないかと思ふ。

水稻作況階級別道府縣數

昭和元年	三	二九	一二	一	二	四七
同十四年	四	一九	二四	一	一	四七
大正十三年	一二	一九	五	四	七	四七
水稻作況	良	稍良	普通	稍不良	不良	計

水稲作況に特に著しく稍良の階級が多いといふことは、何か調査に當る者に共通的心理が作用して居るのではなからうかと思ふが、確かな事は筆者には未だわからない。稍良が多く出現す

同	二年	七	二七	一〇	二	一	四七
同	三年	一	九	二〇	一六	一	四七
同	四年	五	三四	七	一	一	四七
同	五年	二〇	二四	二	一	一	四七
同	六年	一	一	四	三四	八	四七
同	七年	六	三四	五	二	一	四七
同	八年	九	三四	三	一	一	四七
同	九年	一	五	一六	一一	一五	四七
同	十年	一	一六	二六	四	一	四七
合	計	六九	二五〇	一三四	七七	三四	五六四
百	分	一・三	四四・三	二三・八	一三・六	六〇	一〇〇・〇

るといふことは、別言すれば、基準になつて居る普通作況が低過ぎるからの事であるが普通作況に就いては前にも述べた様に前五ヶ年間に於ける中庸の作柄を謂ふと規定されて居るのであるから、若し調査者に於て普通作況の取り方が低過ぎるとすれば、これは結局前五箇年中に於ける中庸の作柄の取り方が低過ぎるのであると云はざるを得ない。元來普通といふことは通俗的には其の發現回数の最も多い場合を指すものであつて、普通より遠ざかるて從

つて、其の發現回数は次第に減少するのが通例である。然るに水稻作況に限つて、普通の發現が稍良より少いと云ふことは、普通が通俗の意味に於ける普通でなく、稍低目に決定されたる普通と見ざるを得ない。我々は、斯くの如きものを普通と見るは怪しからぬなどと云ふ批評を下す前に、何故に調査員は斯くの如き意味のものを普通とするに至れるかの客觀的事情を究明するの要がある。

要當り者へられることは、稲作技術の改善進歩に基き、作柄に長期的上昇傾向のあるに非ずやといふこと、之は水稻の反當收量の上に現れて居る長期變動傾向からの想像に過ぎないのであつて、確固たる自信は筆者にもないが年々の作毛状態が過去數年前のものに比して幾分づゝでも良化せられて居るであらうといふことは、我國に於ける

農業、農學の進歩に鑑みて、充分想像せられる所である。従つて過去の經驗から現在を判斷する限り、現在は多少有利に判斷せらるゝことは當然である。右の外にも未だ何等かの原因があるのではないかと思ふが、今の處思ひ當らない。實際水稻作況の調査に携つて居らるゝ、市町村統計關係者から、何等かの御意見を聞くを得ば幸甚である。

次に五階級の中の上と下即ち良と不良とが現れないといふことに就いて考へて見度い。良は普通作況に比し増収五分を超える見込の場合であり、不良は同じく減収五分を超える見込の場合であるから、水稻作況に於て良、不良が一度も出現しなかつたといふ事は、普通作況に比し増収又は減収五分を超える見込の年は八月十五日現在調査に於ては過去十二ヶ年中一度もなかつたといふことになるが、實際の水稻収量に就ては、必ずしも然らず、假に普通作況といふを前五ヶ年平均水稻一段歩收穫高を以て表し、之に對する各年の水稻一段歩收穫高の増減割合を見るに、増若くは減に於て五分を超える年が六箇年（昭和二年六分三厘増、昭和五年一割増、全六年一割一分減、全八年一割九分五厘増、全九年一割六分減、全十年五分五厘減）もあるのである。

昭和五年一割増、全六年一割一分減、全八年一割九分五厘増、全九年一割六分減、全十年五分五厘減）もあるのである。

元來水稻作況の調査は八月十五日現在を以て行ふものであるが、我國の水稻の出穂期は東北地方と關西地方とは勿論異なるが、大体に於て八月下旬乃至九月上旬の頃であるから八月十五日頃は稻の出穂初期に當る。従つてこの時分の稻の生育狀況は未だ必ずしも稻の全生涯に對して決定的のものではあり得ない。換言すればそれ以後の氣象の變化によつて、未だ生育の回復を見ることが、或は惡化することも充分可能な時期と見なければならぬ。八月十五日頃には未だ稻の決定的なる症狀は表はれない場合が多い。甚しき凶作も、甚しき豊作も未だ此の當時には現れ得ないのであらう。従つてこの當時に調査をすれば其の平年よりの偏差の幅は比較的少い傾向を持つこととなるのである。

右は水稻作況調査の時期によつて必然的に起る現象であつて、別に如何ともすることの出來ぬものであるが、右以外に、更に本調査に於ては集計技術上一層右の傾向を助長するものがある。

それは外でもない。爰にも述べた様に本調査に於ける兩極端なる良又は不良には非常に大なる幅がある。然るに

稍良、又は稍不良には其の變異の幅が極めて制限されてゐる。即ち稍良、稍不良は五分以内の増減に制限されてゐるに拘らず、良又は不良は五分を超えるものと云ふ丈けであるから、良の場合は一割でも五割でも更に極端に言へば十割、二十割でも之に含まれる譯である。減収の場合に於ても同様であるがこの場合には十割即ち收穫皆無を以て極限とする。廣い地域について見る場合は、相互に平均されるからして、著しき増減と云ふことは比較的其の發生の可能性が少いけれ共、小地域に就いて見る時は、年々相當著しき變化を示し得るものである。増収に付ては實際には十割などゝ云ふことはあり得ず、結局は精々三四割位が起り得る極限であらうと思ふが、減収は收穫皆無即ち十割迄は事實上も起り得るものである。斯る性質を有する良、稍良、普通、稍不良、不良の五階級を集計することと極めて困難であること勿論であるが、假りに普通を一〇とし、稍良、稍不良は夫々其の變異の中間値を取るとして一〇二・五、九七・五とするとしても兩極端の良、不良を如何に取扱ふべきか、之に就ては理論的には如何ともなし得ない。之を一〇七・五（良の場合）九二・五（不良の場合）として取扱ふ如きは、良不良の變異の幅を結局五分以上一割未満に制限するに等しく、かくの如き數値を代置して合計を作成したる場合は其の作況の變異の幅を當然縮小さるゝこととなり良なるべきものも稍良となり、不良となるべきものも、稍不良となる場合が起るであらう。作況調査は之を統計として取扱ふ爲には現行の如き表示方法を廢して、比例數により之を表示する様にすべきものである。

—（この章續く）—

統計模範町村を訪ねて〔7〕

村民一齊に號笛に起き

號笛に飯食ひ號笛に歸る

村の更生は村の主腦部から

奥久慈の山田村

◇者記一◇



奥久慈の昔を偲ぶすがともいふか、駒の足どりも昔ながらのそのまゝに、トテ馬車が大道狹しと走つてゐる、摩れちがう自動車を見目にかけつゝ――。

あたりは羊腸たる山裾の道、どうしても助さん、格さんがひよつこりと出て來さうである、時は四月の下旬、櫻はもう散りかゝつてゐる、春の旅はまこと長閑に、何の屈托も起らない。

私は何時しか山田村役場の玄關に立つてゐた。この地、數年前工費十萬を投じて新設された國立煙草試驗場で名高い處も少し人間的にいふなら水戸市選出の縣會議員、ヒゲの鈴木剛次郎さんを産んだ處だ。松平、和田、東連地、棚谷、國安

の五字より成り維新前は各字獨立して一村をなしてゐたが明治廿二年町村制の實施にあたり聯合して山田村となつた、水戸から大子に通ずる縣道に沿ひ、太田から自動車で十數分。大字松平に蛸橋といふがある、その昔、源義家奥州征討の折此の橋を渡らうとすると毒蛇がかま首をもたげてウ〇〇と群れ集り、さすがの義家も之れには悉く閉口して今にその名が残つてゐるのだといふ。

玄關に立つて刺を通じると早速出迎へてくれたのがこの村の統計主任であり助役さんである和田靜氏、つゝいて村長岩間浩氏が慇懃に迎へてくれる、眼を轉すれば玄關前は遠く開けて、遙か、かなたに雜木山が脈々と重なりあつてゐる、内

には明朗なる主人公を控へ、外には豁達の氣がみち〇〇てゐる、この役場を中心とした雰圍氣——アトモスフィアこそはいはゞこの村全体の縮圖ではあるまいか、内も外もなごやかに融け合つたひろ〇〇とした感じ、私は第一に山田は幸福だなと思つた。

助役さんの指導訓練

誰かは言つた『その村を知らんとせば先づその村の統計を見よ』と、むべなるかな助役の和田さんは統計主任として統計事務にたつさはること滿十年、助役として相當忙はしい事務をみてゐながら、綿密な統計の完璧を期して人知れぬ苦心を積んだ、常に統計調査員を、手を取らんばかりに導いてグン〇〇伸ばして行く、御自身は昭和六年に縣の表彰を受けただけだが、指導訓育の功顯はれて、つい先頃、この村の統計調査員野上幾氏は島田農林大臣の表彰にあつかり効績狀にそへて名譽の木杯を贈られた、和田主任はこれを我が事のやうに喜んで、四月二十四日村の調査員全部を役場に集めて野上氏の榮譽を披露し、野上氏がいたゝいた譽れの木杯で冷酒を酌みかはし、心からなるお祝ひをしたのである、表彰狀を左に紹介する。

選・獎・狀

茨城縣久慈郡山田村

統計調査員

野

上

幾

多年農林統計調査ニ從事シ精勵恪勤常ニ研鑽ニ努メ以テ農林統計ノ改善刷新ニ貢獻シタル功績顯著ナリ將來一層奮勵以テ本調査ノ實績向上ニ盡瘁アランコトヲ望ム
右選獎シ木杯一箇ヲ授與ス

昭和十一年三月二十六日

農林大臣從三位勳二等 島田俊雄 圓

折よく來合せた野上調査員をつかまへて體驗を聴いてみると、野上氏は調査員たること滿十七年になるが調査は昔も今も困難なことには變りなく、常に自分は煙草の改良團長とか消防部長などをやつてゐて、そこち歩く用があるので其の都度氣をつけて田の物、畑の物を視てゐる、そのあとで小票を持つて書き込む、不斷さうして統計といふことを念頭から去らないやうにする、永年そんな風に習慣づけると別に何とも思はず、その日〇〇の勤めと心得てゐる、十七年もやつてゐるから、おかげで擔當區内のことは、何處の家には鼠が何疋ゐるか位迄よくわかる、何商賣でも同じ事だが、常に滿遍なく氣をつけてをれば間違ひはない、と語つてゐた、野上氏の體驗によると各種統計調査に要する時間は、或る時は深夜人の寢靜まつた頃にセツセとペンを走らすこともある、物

の日で一般農家の休養のすきに調査を進めることもあるが、
一ヶ年を通じて五十日は調査にかゝるといつてゐた。
これは一野上氏のことであるが、この村の調査員は一大字



査調計統上野・長村間岩 りよ左列前〔明説眞寫〕
田和・記書夫秀田和〔同列後〕 任主計統田和・員
記書川石・記書雄達

東連地区 安衛(○)君 消防部長
内田安太郎(○)君 村會議員
瀬谷地区 山本 宗吉(○)君 産業員、實行組合長
鈴木 重樹(○)君 軍人分會幹事、煙草耕作總代
國安地区 鈴木 幾(○)君 煙草改良團長、消防部長
鈴木 滋(○)君 産業員、消防小頭

調査員打合會議錄

以上何れも村の中堅人物で、多年統計事務に奔走し
深い認識と理解とを以て和田助役が熱心な指導のもと
に、その手となり足となつて如何にせば我が村の統計
を向上發達せしめうるかに最善の力を注いでゐる。

然らば主任たる和田助役はどんな風に指導訓練して
ゐるかといふに、曾て役場書記時代から何か村に寄合
でもあると必ず出て行つて一家の經濟から一村の經濟
更に大きく國の經濟のこと、すべてが統計から出發し
てゐるゆゑを力説して統計思想を村民のあたまによ
く浸み込ませ、また或る時は學校の教壇にも立つて兒
童に統計の大切なことを話して聴かせたりした、さう
して統計の普及をはかる一方、調査員の訓練に工風を
こらし、坪刈の如きも豫め調査員と協議して一大字に
四ヶ所つゝ五大字に二十ヶ所を選定し、調査員合議の上で上
中下の等級をきめることにするから非常な好結果を得られる
そして是等調査員の打合會の模様は町村會の議事録と同様記

を一區とし一區二名つゝ五區十名で左の如くである。

松平區 石川 保一(○)君 産業組合幹事
大森 丑太郎(○)君 煙草指導員
和地區 和田 耕(○)君 村會議員區長
荷池 孝農(○)君 青年會長

録に残して何年も保存することにしてあるから、昨年の米調
査はどうであつたとか、一昨年の麥の收穫決定はどうであつ
たとか、スグにわかるやうになつてゐる。試みに記録の一部
を抄録してみる。

大小麥收穫決定に關する打合

主任助役和田靜議長席ニ着キ「コレカラ九年度大小麥收穫決定ニ
關シ打合會ヲ開催イタシマス合議決定セラレン事ヲ望ム」旨ヲ述ベ
「只今議案ヲ配付スル」旨ヲ併セ述ブ、コノ時第四調査員ハ「本年
度ハ大麥ニ於テ幾分早刈ノ傾向ガアツタ爲メ昨年ニ比シ收穫ハ減少

昭和九年度水稻坪刈成績調査表

大字	調査區	坪刈ノ場所		水陸 稻別	梗糯 米別	作柄別	等位	收 穫	一坪ノ乾 一升當		坪刈所有者氏名
		字	名一地名番						乾燥容量	重量	
松平	一	花立	一、四〇〇	水稻	梗米	愛國	上	十俵六分	一五	二五	
	二	久保田	一、九〇〇	全	全	全	中	七俵五分	二五	二五	
全	一	花立	一、四二三	全	全	全	下	五俵六分	九三	二四二	
	四	久保田	一、四七四	全	全	常豐	上	九俵一分	一五三	二五三	
全	三	マセヤ	一、三八七	全	全	愛國	中	六俵六分	二〇	二四八	
全	四	臺田	一、四〇〇	全	全	常豐	下	四俵三分	七三	二四〇	
東連地	六	寺前	三三	全	全	愛國	上	九俵六分	一六〇	二五八	

ノ見込ミデアル反當リ收穫ヲ左ノ如ク決定シタシト述ベテ一同ニ
諮リ各調査員異議ナク左記ノ通り大麥ノ反當リ收穫高ヲ決定シタリ
とあつて決定量が書かれてある、この決定によつて調査を
進めて行くから等差がまち／＼にならない、坪刈もまた最初
同様の打合會を開いて大体の方針を定め、これに依つて各調
査員がそれ／＼實地に就いて調査をなし、その結果表を持ち
寄つて再び協議會を開き合議の上で成績をきめることにして
ある、これならば大抵見込違ひはない筈だ、左に合議により
作られた坪刈成績調査表をそのまゝ掲げることにする。

東連地	五	宮下	七九	全	全	常	中	七俵二分	二〇	二五三
全	五	長久保	一二六	全	全	全	下	五俵二分	全	二五〇
棚谷	七	窪田	一八五	全	全	無芒愛國	上	八俵七分	一五	二五三
全	七	棚谷澤	二〇三	全	全	愛國	中	五俵八分	六	二四九
全	八	後棚谷	三九	全	全	愛國	下	三俵九分	六	二四〇
國安	九	千	一七	全	全	無芒愛國	上	九俵七分	一六	二五八
全	十	竹ノ内	七四	全	全	常	中	七俵四分	二四	二四四
全	九	禮ヶ作	二五	全	全	愛國	中	七俵二分	三〇	二四八
全	十	岩ヶ作	一五三	全	全	常	下	四俵八分	八〇	二四三

誠は通じて大臣賞

斯くして役場も熱心、調査員も熱心であるからいつしか熱意は村民にも通じて六七年來調査員が行くと『あゝ今度は麥の調査だな』『煙草の調べだな』といつて自ら進んで實際を有りのままに申告するやうになつたさうである。

至誠天に通ずといふ言葉があるがこゝ山田村の統計主任和田助役はじめ調査員者君の至誠は遂に村民によく認められ、農林大臣のお眼にすらとまつたといふことは、とりもなほさず天に通じたゆゑんで、諸君が心を協せて今後一層奮勵努力

されたならば必ずや諸君全部が選奨の榮譽を荷へ得るのではあるまいか。

メキ／＼伸びゆく村

最後に村勢について記して見よう。山田村は東西一里十八町、南北一里十二町、四角い整つた村で昨年の國勢調査によると世帯数が五百三十二で人口二千九百六十四人、古來水府煙草の主産地で、五百何戸かのうち四百戸は葉煙草を耕作し一ヶ年の産額十三萬圓に達してゐる、次は水陸稻に大小麥でどちらも年産三萬四五千圓、その他林産においては薪炭の生

の目的は達し得られるのではあるまいか。

數年來毎年六月十日を時の記念日と定めて、國民をして時の觀念を強めさせようと計つてゐる、山田村では一年の内に唯一日だけお祭騒ぎの時の觀念を詰め込もうとしても駄目だ、一步を進めて昨年六月役場にサイレンを取りつけ、毎日の六時と正午と、夕方の六時に一分間つゝ鳴らしてゐる、サイレンに起き、サイレンに飯食ひ、サイレンに野良から歸るきまりのいゝ習慣をつけてゐる、是れも經濟更生一部の現れで村民には大變喜ばれてゐる。

此村で名高いもの

國立煙草試驗場は役場と同じ大字松平にあり、現に場長以下四十名ばかりの場員が世界各國の各種名葉を試作し、専門的研究を行つてゐるが、近代的モダンな建物と是等特殊な試作場とが評判で參觀人頗る多く、おかげで村も幾分は潤ふやうだ。

尚ほ役場わきに酒倉を持つ三宅暹氏醸造の精酒『男山』は古來奥久慈の銘酒として芳醇を稱せられ年産三萬五千餘圓に上つてゐる、煙草に次いで名あるものゝ一つである。

産盛んにして四五年前迄は一ヶ年林産全部で僅かに三千五百圓位であつたのが昭和十年度には松、檜、杉等建築用材と併せて一躍一萬三千圓の巨額に達してゐる、農家の副業としては養鶏最も盛んで、葉製品のように一年五百圓位の生産であつたのが數年來めき／＼發達して昨年の産額四千五百九十六圓を算した、また酒樽、醬油樽等の木製品あり、養蠶を試みるもの等いはゞ多角的農業によりて収入を多方面に求め、殊に葉煙草の如きは葉煙草試驗場のお膝元でもあるしかた／＼その筋の指導も宜しきを得て年と共に産額を高め、餘程の天災にでも遭はぬ限り不作なしと迄いはれてゐるので村民の懷る工合は大變よく、昨年經濟更生村に指定されて以來、岩間村長、和田助役等をはじめ役場から先づ範を郷黨に垂れ一切のムダを矯めることに實際に當つて努力してゐる、謂ふ所の經濟更生は理窟ではない、國民全般が更生の熱意に燃えて自力で行くといふ固い決心のもとに、陋習を打破し、ムダを排除し、眞剣に厚生經濟生活にはいらうと努力するのでなければ眞の經濟更生は容易に求め得ない、岩間村長は、村長としては日尚ほ浅いが、訓導として村の小學校に二十年近くも勤務し、牢平として抜くべからざるところの校風を樹立したといふ努力主義、實踏躬行主義の人であり、溫良恭謙の人であるし、和田助役また前述の通りである、この首腦者が戮力協心以て經濟更生に當るのであるから茲にはじめてそ

水海道の巻

意氣と信念に燃える 若き統計主任の努力

天然痘騒ぎの眞ッ只中に飛込んで
氣もそぐろにインターヴュー

統計模範の町

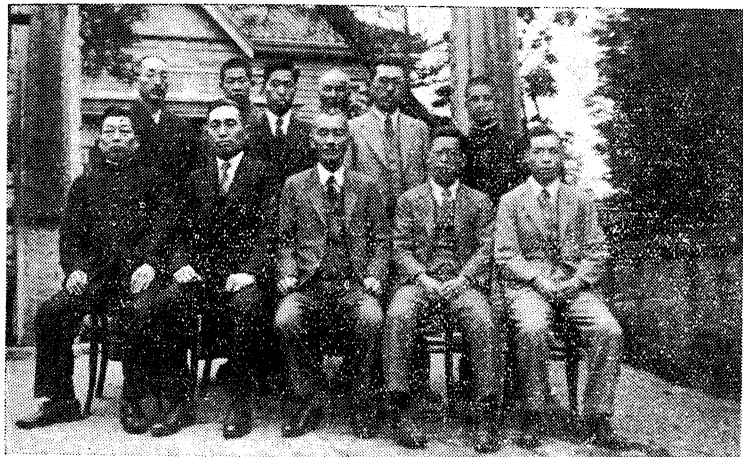
折しも水海道町役場では天然痘の突發で上を下への騒ぎであつた、全町民の種痘があるといつて廳内も廳外も、思ひがけない此の異變におびえた町民達で一ぱいになつてゐる、そんなわけで此の日、役場樓上に開く筈だつた隣接町村長會も急に會場を他に變更するといふ始末に、インタヴューも何もあつたものぢやない、それでも助役の柴沼三郎さん、統計主任の小島久一郎さんは快く筆者を迎へてくれ、寸暇といふよりも寸隙を偷んで斷片的ながら町の統計、町の情勢について話してくれた。

古來名高い小さな港

水海道は結城郡の最南端に位し、東西十町餘、南北およそ三十町、面積三分の一方に過ぎない小さな町で戸數千六百

四十二戸、人口男三千八百十二人、女三千九百五十九人計七千七百七十一人、其の内の一部の農家をのぞいては概ね商業を營み、街並も賑やかに、ちさいながらもなかくに繁昌してゐる。東の方には小貝川を控へ、西には鬼怒の清流あり、天恵を利用して古來東都との交通大いに開け、運輸の業頗る繁く陸上運輸の開けなかつた二十年ばかり前迄は、下妻あたりの人達すら東京へ出るのに水海道から船に乗り、二日がいりで出かけたものである、其の頃の水海道河岸は申せば今日の港の如きもので船に乗る人、船から降りた人、貨物の載せおろし等で町は随分賑を極めたものである。常總鐵道の開通により、さうした原始時代めいた賑はひは薄らいたとはいふものゝ、この鐵道も近頃ガソリンカーを間斷なく運轉し、乗合自動車をも經營して旅客の便に供へてゐるので名勝を慕うて

水海道役場員



〔明説眞寫〕前列右より小島久一郎氏（主任計任）
柴沼三郎氏（役助）古谷一藤氏（役助）木田安太郎氏
清作氏・東條氏・鈴木忠次氏・松崎徳藏氏・須田定八氏・飯野

來り遊ぶもの益々多きを加へ、町の盛衰には何等變りはない即ちこの附近には日本武尊が東征の折にこの地を通られたとか、坂上田村麿が是亦東征の途次水海道近くに宿をとつて不思議な夢をみたとか隣接守谷に任官した平將門との因果關係など様々の傳説、肉付きの面で名高い弘經寺、果物語でうたはれてる累の墓、萬藏元三大師など、明媚なる風光と數多き名勝舊蹟を近くに控へて多方面の人々を引きつけてゐる。

文人墨客頻りに集る

醫師富村登氏の郷土史談によると、水海道は元水飼戸（水かへと）とも御津海道とも書き、水に縁のあつた土地で、先年豊水橋架設工事の際に鬼怒の川底およそ二十六尺の處からいろいろな海産貝殻類の化石が夥しく掘り出された、こ

れで見ると大昔此の邊一帯が滄海の一部であつたことが明かだともいはれてゐる。水と地方文化との關係は何處の歴史に考へても同様で、水海道は江戸時代から地方文化の中心をなし、碩學猪瀬豊城をはじめ幕末の志士秋場桂園、藤森弘庵近くは菊池三溪、信夫如軒、秋葉綺堂、渡邊華洲など常に學者達が來往し、俳聖一茶もわざわざ遊びに來てゐる、畫家では杏所、椿山、半香など此處に墨蹟を残したのみか椿山は小林藏六、猪瀬東寧、服部波山など立派な弟子を養つた、かうした点からみてもその昔水海道は學者や畫家が江戸とこの地の間を往來し、醫師や僧侶なども相當に多く、寧ろ今日以上に名聲を博してゐたかも知れない。

小島主任の貴い處生訓

統計主任書記小島久一郎さんは

若い、きれいな、そして元氣な方で兵事主任をも兼ね、潑刺たる姿を敏活に動かしてゐる、仕事の上には強い信念を持たれて良しと思ひついたことは先づ君自身之を實際に行つてみて是れならばといふ信念のもとに調査員を動かすといつたやうな方針で常に調査員を導いてゐる、君は言つてゐる。

この町の統計が完璧に近いなどとは決して考へてゐませんが、私は私に與へられたる天職と心得てたとへ一歩つゝなりとも向上發展させたいと常に念じてをります、統計の如きものはイヤだと思つたらとても出来るものでない、町のため乃至は國のために國民として盡すところの義務であり責任であるといふ氣込みで事に當つたならば、さう六ヶしなんて考へは起らないと思ひます、何事も意氣である、かうしなければならぬ、かうさせねばならぬと強い意氣を以て臨めば調査員も亦同じ氣持になつて働いてくれます、茲で一つ調査員の方々を紹介するが、十三區十三名で

- 第一區 杉山利助君 (英)
第二區 堀越留吉君 (英)
第三區 倉持巳之市君 (英)
第四區 山中記君 (三)
第五區 野口常一郎君 (四)
第六區 五木田清吉君 (英)
第七區 古谷金次郎君 (五)

- 第八區 荒井藤四郎君 (三)
第九區 原田平兵衛君 (英)
第十區 五木田保太郎君 (四)
第十一區 山野井吉雄君 (一)
第十二區 淀名和辰藏君 (英)
第十三區 片野新吉君 (五)

以上概ね小島君よりは年輩も上であり、又町の中堅人物でもあるが、言ふが如く君は強い信念のもとに、ある目標を定めてお父さんのやうな人達へのぞんでゐる、調査員諸君もこの若き主任の熱心に感動させられて共々向上發展に努力し、統計成績はめき／＼上向いてくる、しかも調査員諸君のお手當はといふと米生産迄加へて僅かに十三圓だが、手當などは全く度外視して、ほんたうにお國への御奉公といった氣持で働かれる、この氣持が貴い珠玉となり、結晶となつて正しく町の基礎は築かれるのである。

百尺筆頭一歩進めて

更に小島君の異とすべきことは、かくして町の調査員諸君に望むばかりでなく、百尺竿頭一歩を進めて、その意氣、その信念を隣接村にも及ぼし、國家といふ大きな建前のもとに共に／＼よりよく統計を伸ばさうと試み、水海道を中心に附近數ヶ村は統計協會結城郡支部の第四部會に屬し時折り研究

會が水海道に開かれるが、之れとて卓上一遍の研究では眞の研究にはならぬ、折角その道の人が集つたのだから、もう少し有意義に始終したいと考へ耕地の縮圖を印刷し、之を出席者全部に配つて其の圖面により實地につき調査を行ひ、調べ得たそれ／＼の成績を比較検討し互ひに批評し合つたりして研究上非常な良果を收めてゐる、若き潑刺たる小島書記の働きの一端が窺はれる、小島君は昨年内閣統計局に開かれた統計講習會に縣より選ばれて出席し、統計上の新知識を豊富に持合はしてをられる、調査員堀越留吉君また昨春二月十一日紀元の佳節にあたり、多年統計事務に精勵し効績顯著なるものがあるので統計協會總裁安藤知事から表彰された。

異常なる生産増額

以上の如く此町は古來舟楫の便により江戸との來往繁く文物發達の中心をなし、遺されたる名所舊跡今尚ほ人口に膾炙して遊子の旅情をそゝるものあり、縣西南の一名邑として知られてゐるが、更に一層委しく町勢について記してみると現在戸數人口は前述したから重複をさけるが、婚姻の數が昭和五年には五十八件であつたのが十年には九十二件と、あまり倍方の増加を示し、出産は昭和五年には男が八十三人女が九十八人だつたが十年には男が九十三人、女が百九人に増してゐる、現在耕地は總面積二百六十八町八反歩(内、田が

五十三町五反二畝、畑が二百十五町二反七畝)養蠶業もなか／＼に盛んで七十二町七反六畝余の桑畑がある、しかして生産物の重要なものを昭和五年と十年と併せて左に表示する

	昭和五年		昭和十年	
	米	二五、六八四圓	三四、六二五圓	
大麥	三、六二九圓		一二、九八七圓	
小麥	五、四〇〇圓		一五、七八七圓	
大豆	四、九七二圓		六、三八〇圓	
繭	九、六六五圓		一二、一三二圓	
屠殺生肉	—		一四、六三六圓	
清酒	五〇、四〇圓		七二、七三二圓	
醬油	四四、五三三圓		五六、四〇〇圓	
繭織物	一一、〇〇〇圓		二九〇、一九六圓	
産額合計	二五七、六八三圓		五二〇、八六八圓	

僅々五ヶ年ばかりの間に總産額が倍にもなつてゐる、各産物共相當な増額だが、就中異常な増數字を見せてゐるのは繭織物の二十九萬圓で、古來石下木綿といへば、かなり名高いものであつたが水海道の繭織物なんて、どんな織物か恐らくは餘り知る人もあるまい、この繭織物といふのはゴツ／＼した白木綿で同地の北村連之助氏が主として生産し、醬油の絞り袋として野田町へ輸出される特殊品である、吾人が日常口にするとところの野田のキツコマン、銚子のヒゲタ醬油は水海道産の袋から絞り出されるのだ。

教育方針と町の人物

學校には中學あり、女學校あり、私立の菁莪學館、城北女學校等あり、昔から文人墨客の輩出した土地、加之も氣概あり、風骨ある學者に精神的に教育されて來た土地柄だけに、まことに多士齋々であつた、現在尙ほ社會的に活躍する多くの人材を數へてゐるが、農村問題に就て帝國議會の第一人者とまでいはれてゐる代議士風見章氏もこの町の農家の生れである。

ある。

町長は目下缺員で、助役柴沼三郎さんは會て縣視學として郡長として近くは愛國婦人會の名主事として聞えた紫沼與太郎氏の令弟で、多年町の小學校長を勤め二三年前、先きの武藤町長時代に助役に擧げられた、謹嚴重厚な何れかといへば漸進的な人であるし、教へ子も澤山あるし間違ひのない人として町の評判は頗るよい。

書圖贈寄

- | | | | |
|---------------|-----------|---------------|---------------|
| 東京府農産物一覽 | 東京府總務部調査課 | 造幣局第六十一年報書 | 造幣局 |
| 昭和十年產米統計 | 山口縣 | いしずゑ(三月號) | 福岡縣統計協會 |
| 全產米統計 | 全上 | 朝鮮統計時報(創刊號) | 朝鮮統計協會 |
| 東京株式取引所統計月報 | 東京株式取引所 | 岐阜縣統計書 | 岐阜縣總務部統計課 |
| 昭和九年三重縣統計書第二編 | 三重縣 | 岐阜縣總務部統計課 | 兵庫縣會社一覽 |
| 石川縣勢一覽 | 石川縣 | 兵庫縣總務部調査課 | 近畿地方市町村別人口増減圖 |
| 和歌山縣勢一覽 | 和歌山縣統計協會 | 京都帝國大學文學部 | 統計事務成績者成績調書 |
| 第十一次農林省統計表 | 農林大臣官房統計課 | 大阪府總務部統計課 | 昭和十年岡山縣學事統計一覽 |
| 三重之統計 | 三重縣統計協會 | 岡山縣 | |
| 統計時報 | 奈良縣統計協會 | | |
| 岩手縣勢要覽 | 岩手縣 | | |
| | | 群馬縣市町村別統計書 | 群馬縣 |
| | | 昭和九年郵便貯金郵便局別 | 状況表 |
| | | 山形縣米作統計 | 貯金局 |
| | | 山形縣養蠶統計 | 山形縣 |
| | | 昭和十年高知縣統計書第二編 | 全上 |
| | | 全滿統計表 | 農林大臣官房統計課 |
| | | 昭和九年農事統計表 | 全上 |
| | | 昭和十年麥統計表 | 全上 |
| | | 國勢調査速報 | 神奈川縣總務部統計調査課 |



統計調査員座談會

日時 昭和十一年五月二日
場所 久慈郡染和田村役場

縣廳側 川崎統計課長、福田統計協會委員、富岡囑託

出席 染和田村側 村長和田三郎、小學校長大曾根玉之介、統計主任鈴木榮一、△統計調査員後藤惣吉、小林武、後藤俊行、川又朝吉、二方廣之介、白方要藏、高須鐵之介、會澤正、和田達司、吉澤靜、豊田貞次、金澤吉平、河井鐵之介、中野徳之介、椎名誠(受持區順)

山は緑、地は緑、むせるやうな若葉の匂ひを乗せて軟かい風が、そよ／＼と會場に運ばれる、五月の大空に、男兒の意氣を――否々々、こゝ染和田村統計調査員の意氣を象徴するかの如く、鯉幟、吹き流しがなごやかに泳いてゐるかういふと如何にも支那式に、染和田の調査員を理窟抜きに褒めあげるやうだが、事實――模範村の調査員だけに此の日の集りも午前十時といふのに八時には全員悉く役場に參集して、吾等の到着を待つ間に、けふ晴れのこの舞臺に何を語らう、何を發表しようかとお互ひに研究を練つてゐる。

染和田村勢に就ては、昨春本誌第二號に掲げた訪問記に概略盡してあるが、鈴木主任が早くも大正十年頃から統計の向

(寫眞) 前列左より大曾根校長、鈴木主任、川崎統計課長、
和田村長、富岡囑託、其他は統計調査員

川崎統計課長 御挨拶を申し上げます。
 本日は皆さん大変お忙しい處を特に此
 の催しのためにお繰合せ下さいまして
 有難う御座います。染和田村が統計事
 務が優良で、縣下の模範村と謳はれて

をるゆゑんのは本日御列席の皆様方のお骨折の結晶でありまして、その効果が報いられた結果であります、御承知の如く主任の鈴木さんは過般その成績優秀なる故を以て知事より表彰さ

かりでなく、自分自身の經濟のために缺く可らざるものであるといふことの御認識を一層深めて戴きたいのです、言葉をかへて申しますれば、此の統計調査を單に縣規定の示す處によつてのみ行ふのでなく、自家の日常に之を應用したいのであります、私は夙に家計簿の記入を奨勵してゐます、一冊のノートにその日／＼の支出と收入とを記入するのでありまして倦まずたゆまず明細に出入を記入し、一ヶ月の末に合計を出して收入がどれだけあつて支出が何程あつた、これでは收入より支出方が多いから次の月は少したと考へ

今迄とても統計が小にしては一家經濟のため、引いては村のため、縣のためにしては國のために如何に重要であるかといふ御認識のもとに皆様が御努力下さつたのでありますが、私は統計が縣のためとか、國のためとかいふば

へなければならぬ、とさういふ風に
して一ヶ年になりましたら毎月末のを
集計して支出よりも支入が多かつたら
結構ですが、不幸にして出が多くて入
が少なかつたら所謂その家の経済は赤
字になるわけで、毎年この赤字ばかり
を繰返してゐたのでは家庭は破壊する
筈をよく考へて、どういふ處にムダが

あるか、どんな處を考へたら支出を少くすることが出来るか、例へば農家にいたしますれば、今年は随分眞面目に働いたやうだが、また赤字が出る、これでは仕方がない、今迄の働きでは足りないのだからもう少し朝を早めにして働いて見ようとか、副業なり何なりして収入を圖るといふことに氣がつくのです、斯様にしますことが即ち統計を活かして使うことで、支拂が収入より多い場合にはムダをはぶいて収入を助けると、かういふ風に毎日々々そこに重点をおいて注意を怠らなかつたならば、縣とか國とかばかりでなく自分自身の經濟そのものに如何に役立つていくかゞわかると思ひます。

どうぞ皆様も此の統計を活かして行くといふことに觀点を置き、今後とも一層の御努力によりまして統計の向上發達を期し流石は染和田だ、すべてがガツチリしてゐると謳はれますやう切に一段の御努力をお願いしてやまぬ次第で

あります、之れから座談會にはいりますが、會の進行上私が座長となつて司會いたします。

麥の調査に就て

川崎課長 從來本縣の統計は縣の規定により産業統計に専ら力を入れて行つてをりますが、其の内麥の調査につき何か皆さんのうちで御感じになつたことがありましたら腹藏なくお話を願ひたい、例へば報告期の如きも七月十五日では早過ぎるから七月一杯にして貰ひたいといふやうな意見もしばしば聞いてをります、實際七月十五日と申しますと、無理かも知れませんが、是等につきましても御意見がありましたら承りたい、川又さん如何ですか。

川又 私は麥の調査で最も至難としまするのは大麥と裸麥の識別であります、裸麥と大麥とが接続して耕作されてる場合に何處迄が大麥で、何處から裸麥かわからない、斯様な場合には一見し

て簡単に識別が出来るやうな調査方法はないものでせうか、境界の處も何か目印になるものでも立てたらどうかと考へます。

川崎課長 目印に旗なり何なり樹てゐる處がありますが、川又さんの方では何もさうした施設はないのですか、若し立てゝないといふと一々耕作者にでも聞いて調査しますか。

川又 何も立てゝありません、耕作者について調査してゐます。

(次いで高須調査員は麥の間作の点につき、體驗を述べて調査上の意見と疑問点を二三述ぶる處あり、金澤吉平君とかはる)

金澤 川又さんの大麥裸麥の識別の点であります、私の所持区内では耕作者に紙の旗を立てさせることにしてあります、近頃では耕作者もよく其の邊のことがわかつてくれました時期節になりますと他からはれずとも實行してくれますから調査の進行上至極結構に運

ばれてをります、最も裸麥は所持区内で二反歩端ししかありませんが、唯困りますのは第六區の白石さんの方と第十一區の豊田さんの方からの入作が澤山ありますので、この入作の人達にはこちらの習慣がわかりませんので、旗を立てることも何もしてくれませんか、お互連絡をとつてよき方法を考へたいと思ひます。

會澤 入作になりますと識別は困難ですなあ。

川崎課長 麥の調査期限の七月十五日現在には皆さんの方では早過ぎると思ひませんか。

金澤 少し早過ぎます、此の間の打合會でも七月中旬では無理だといふ議論が大變出ました。

一段歩收穫高決定に就て

川崎課長 麥の調査については御議論もつきたやうですから今度は、一反歩收穫高決定に就て御意見を承ることに致

します、一反歩收穫高決定は、縣の方では調査員の合議制といふことになつてをりますが、處によると合議制よりも調査區毎に決定してはどうかといふのもあります、調査區毎にきめたのを主任の方で集計して出すと一層正確なものを得られるとかういふのです、理論上から申せば其の方がいいかも知れませんが、茲に心配になるのは調査區毎にきめることになりますと擔當調査員のあたまだけできめてしまふから、餘程しつかりした調査員でないとか考へものだといふことになるのです、合議制ならば全部の調査員が澤山のあたまできめるのだから間違が少いといふことになりませんか、中野さん如何ですか……。

中野 本村では合議制でやつてをりますが、私は之れに先たちまして所持区内の基準調査を行ひ、一方篤農家の意見も聴きまして、此の二つを持ち寄つて合議制に臨むことにしてゐます。私の

考へといひましては、調査區毎に調査する方針のもとに主任と調査員が、篤農家の意見と調査員の下調べしたものとを併せ持ち寄つてきめるのが一番正確なものが得られると——かう思ふのです。

和田 私は收穫高を決定するには小範圍できめるより大範圍で決定すれば確實を期し得られようと考へますので、主任の意見と、篤農家の意見と、調査員の調査とを持ち寄つた合議制がいいと思ひます、何處でも同様かと存じます、此の染和田なども、南部と北部とでは、作人も違う、土質も違うししますからそれ等の關係で同じ上作でも大變はたかりがあります、それですから各調査員が調査したものを持ち寄つて合議すれば、平均した正確なものが現はれると思ひます。

川崎課長 左様致しますと茲にも御意見が對立したことになります各調査區毎に調査する、本村でありますなら十

五區十五人の調査員が調査したものを集計して決定高を出すといふのですから一層綿密になつて来る、一方の合議制は良いのも悪いのも平均してきめることになるから結局調査區毎の調査の方が綿密であると言ひ得られるのですが、前申上げた如く調査區毎では調査員一人の判断になるから調査員の素質如何によつては決して安心が出来ないといふ缺點も出て来る、只今承りました和田さんの御意見は主任と篤農家と調査員と、この三つの意見を持ち寄つて合議できめるといふのですから條件が備つてゐる、ツマリ調査員限りできめて了うとあぶない、それよりも合議できめれば安心であるとかういふことになりまますね……。

中野 私の所持金は砂山のスグ下の方ですが、作柄が他に比べると大變おちてをりますから合議では思はしくありません、調査區毎に調査しませんと、ほんたうの數字が現はれません。

會澤 理論からいへば一筆毎に調査するといふのが理想ですが、實際問題としてはそれもなか／＼困難でありますから合議制がよからうと思ひます。

金澤 調査區毎にしますと調査員の推定だから、まあ、あたまの問題になりますから、多くの人の意見で合議で決定するのがいゝぢやありませんまいか。

一方は調査區毎——一方は合議制、端なくもこゝに意見の對立を來たし、各調査員が夫々の體験と、耕作狀況、土質、地勢の關係等から眞剣に意見を闘はし、何れも研究的態度に出で、兩々譲らず、遂に會澤調査員から『然らば課長さんの御意見は？』と突ッ込んで來るなど此の種の座



(寫眞會談座に於ける川崎課長と挨拶)

談會に稀れに見るの活氣を呈し川崎課長は之れに對し『縣の規則の上では合議制をとつてゐるのだから……』と濁して次の問題たる

養蠶調査

に移り、後藤(惣)調査員第一陣を承つた。後藤(惣)御承知の如く當地方は煙草が主産でありまして養蠶はごく僅かしかやつてをりません、その養蠶も養蠶實行組合と連繫して、組合の方で調べてくれませんか少しも困難はありません。

川崎課長 飼育者は正直に申告しますか。後藤(惣) 實行組合のとほゞ合致してます、違ひと申せば異蠶でも出來た場合に幾何かヘル位のもので別段數字に變りはありませんから、調査は極めて樂です。

小林 私の方には養蠶をやつてゐるのはたつた一戸丈しかありません、それも組合と連繫がとつてありますので……後藤(俊) 私の區には一戸もありませんから従つて調査はいたしません。

鈴木主任 何しろ此の村では養蠶をやつてゐるのは全部で十五六戸ですから……大したことはありません。

米生産統計調査に就て

川崎課長 次に米生産統計調査について坪刈の御感想なり、農家の申告、基準標の交換等、是れは皆さんの最も重要な問題でありますから定めし御意見も澤山御座います事と存じます、二方さん如何ですか。

二方 私は昨年四月調査員を拜命したばかりで一生懸命勉強中です、坪刈につきましても鈴木主任さんから指導を受けましたが、何分不慣れのため思ふやうにまゐりません、昨年秋季には十ヶ所ばかり坪刈をやりましたが之れを一段歩に計算しましたら大變殖えてしまひました、やれ冷害の何のつて、トレない、トレないといはれてゐるのに私の調査では如何にも好成绩に現はれてをりますので、役場で訊いてみると坪刈

ばかりでは當にならぬといはれました坪刈はそんなに當てにならぬものでせうか？

川崎課長 坪刈は参考とすることになつてゐますから、坪刈の結果を以て正確なものとのみは言ひ得ないのです、こちらでは全刈はやつてゐませんから。

白石 米生産統計につきましては屢々問題を起したりして事重大なるに鑑み、私は九月上旬に下見をし、十月下旬本調査の際、坪刈の場所を選定し、耕作者の意見も聽いてみたりしますがどうも最後の結果が附合しません、要するに風土や土質の關係によりましたり、乾燥が一定しなかつたりして一定しないものと思ひます、どうしても坪刈は當になつて當てにならぬと思ひますが、之に就きまして正確な御指導を仰ぎたいと存じます。

川崎課長 坪刈に就ては本縣では『之を参考として』といふことになつてゐるのですから坪刈のみを以て正しい統計

を得ることは頗る困難で、町村々々の状態により何掛かつ引いていかねば正確なものはありません、一べん全刈をやつてみてはどうか、之れによつて坪刈と比べてみると、どれ位の開きがあるかといふことがハッキリします。米生産統計に就ては全國的に統一されてをりますが、一体農林省の規定は、これは改正前の千葉縣の規定を参考としたもので坪刈を規定の中に入れてありますが茨城縣では坪刈の規定は抜いてしまひました、併し調査上何等かの標準をおかぬと困るので参考として入れたのです。

會澤 つまり其の参考を重く見過ぎたのですな……。

川崎課長 次に農家の申告について吉澤さんに伺ひます。

吉澤 私も一昨年十一月に拜命したので何等經驗がありませんから一寸わかり兼ねます。

川崎課長 あゝさうですか、併し一年餘

の體驗があるわけですから何か聞かせて下さい。

河井 私の方などでは少々正確な申告です、前はヒドくて、とても困つたものです、税金等には關係がないのだからといつても、なか／＼安心出来ないで内端々々に言ふクセがあります、この出来映えでは五十俵は確實とみて調べに行くときと妻君が五十俵といつても停主は『何！ソナにとれるものかせい／＼四十二三俵だらう』と妻君をおどしつたりしたものです、それが今日では農民の頭が統計的に進歩して正確に申告してくれるやうになりました、最初は何と説明しても『君等はそんなことをいふが實は村税の資料にするんだらう……』などゝいつて頑としてきかなかつたものです。

會澤・金澤 資力調査員と統計調査員が同一人であつたから資力調査と統計調査を混同された傾きがある。

川崎課長 調査時期に今年は何俵位と

るのか、自分とこの收穫高がわからぬやうなものはありませんか。

豐田 近頃そんな百姓はありません、嬭子供に迄よくわかつてゐます。

金澤 統計思想が今日の如く普及され、理解されて來ましては對人調査にする方がよかありませんか。

川崎課長 對人調査が完全に行はれることになれば之れにましてのことはありません、理論からいつても實際からいつても將來は對人調査でいくべきものでせう。

金澤 だん／＼さういふ方面へは進んで來てますから、もう少し統計が一般に認識されましたらよからうと思ひます。

家畜山林等の調査に就て

川崎課長 家畜は調査員任意にやつてゐるやうですが、村で一定の方法をきめて調査するやうにしてはどうか。

會澤・推名 やはり一定の用紙がありまして各自ノートへ控へておいたもの

用紙へ書いて提出することになつてゐます。

統計思想普及の爲めに試みた施設と現在の狀況

川崎課長 統計思想の普及につきましては、幸ひ皆様の御骨折により大部徹底されて來ましたが、また思ふ様に行き渡つてゐない憾みもありまして、舊態依然といつたやうな町村が無きにしもあらずです、それで縣の統計協會では今回十六ミリ活動寫眞機を購入し、フィルムの撰定も終りました、何れ農閑期を利用して先づ上等でない町村、統計思想の徹底してをらぬ町村から順次に活動寫眞を映寫し、講演と相俟つて普及を圖り、一面經濟更生の資けにもしたい考へです、先頃のお話では本村などは統計思想が一般に浸み渡つてゐるやうですが、河井さん、これについて御感想を承りませう。

河井 本村では、鈴木主任さんが熱心に

宣傳され、或る時は街頭に立ち、或時はビラを戸別にくばり、又ある期間役場から各村民へ用ひる封筒に統計の標語を印刷したり、村の統計を表示したり、いろ／＼熱心に宣傳されましたので、統計は大切なものだといふことがわかつて、今日では村民全体が統計に大へん興味を持つやうになつて來ました。

豐田 全く河井さんのお説の如く、鈴木主任さんの御指導によつて耕作人にも統計の事がよくわかつて、税金に無關係なことも徹底し、虚偽の申告など殆んどなくなりました。

川崎課長 染和田村のやうに普及徹底されますと結構ですが、またそれまでにならない處が澤山ありますので活動寫眞で宣傳しようといふのです。

豐田 一層徹底させるために本村でも活動寫眞をお願いしたいものです。

會澤 何等慰安もない山間の僻地ですから是非本村でも活動寫眞を見せていた

くやうお願いします、そして子供供に至る迄村民全部に見せていたゞけますと統計思想が一段と徹底することにもなり、課長さんが先刻お話になりました家計簿の如きもよくわかつて來るだらうと思ひます。

川崎課長 村の人の慰安といふ点から申しますと優良村でも結構なわけですが實は此の活動寫眞も慰安といふやうな意味も考慮におきまして、フィルムは『米になるまで』とか『自力更生の村』とか統計に關係したものゝ外に實寫物や漫畫なども加へまして子供達にも喜ばれるものも撰びました、農閑期を利用してやるつもりです。

一同 結構ですナ、結構ですナ、こちらの方へお序でがありましたら是非やらしていたゞきます。調査員が十言いふより一回の映寫の方が、餘程効果があります。

縣細則に示す調査方法實施以前に米麥の小票調査を行ひたる動機と其の經過

川崎課長 本村では縣の調査方法實施前に米麥の小票調査を行つたさうですがその動機及び經過に就て主任の鈴木さんにお尋ねいたします。

鈴木主任 随分古いことですが、ある祝賀會の席上であつたかと記憶して集つた人達の間に統計の話が出て、或る人が私に『どうも本村の統計は杜撰である、あんなものぢや何の役にも立たぬ』と衆人環視の中と言はれたものですから、私も少しムツとして『何が杜撰だ、杜撰といふならわけを聞かしてくれ』とかういひますと、その人は『それなら何かシカとした資料があるか』と重ねて突ツ込んで來ましたので『勿論資料はある、資料なしで統計は出來ぬ、各戸を訪問し各耕作人を訪問

して資料を得てをる』と私は立派に答辯したつもりで申上げたのです、するとその人はサモ嘲るやうな態度で『それだから杜撰だといふのだ、君は各戸を訪問したり、耕作者を一々訪ね廻はつたりして御苦勞なわけだが、その折角の努力も唯かうであゝだの報告だけでは信じられぬ、役場に其の報告を證明するだけの資料が何も備つてゐないぢやないか……』と、かういはれて私は全くグウの音も出ず、辱かしいやら氣まりが悪いやらで匆々に其の場を引あげましたが、考へて見れば全く其の人のいふ通り役場には何も無い、是れはどうしても各戸につき調べたものが資料として整理されてゐなければだめだと考へそれから自分の考案になる小票を謄寫版刷にして各戸につき調査報告をとり、曲りなりにも一つの資料が備つたわけですが、其の當時は自分で豫想したやうな數字はどうしても出ない、要するに、統計といふものがわか

らないからだと考へまして専ら宣傳に努め、どうやら今日まで漕きつけた次第です、そのうち私が縣から表彰されました時には遠く朝鮮の方から統計に關する資料を是非自分にも分けて貰ひたいといつて來られました、これは大正十五年四月朝鮮京畿道の統計調査員黃詰周といふ鮮人で、自分は今度統計調査員を拜命したが何もわかつてゐない、聞けば貴殿には統計事務で縣から表彰の榮譽を荷はれたさうですから、其の資料を欲しいといふので、早速送つてやりますと其の後昭和二年四月に幸ひ自分も知事から表彰されたといつて細々と禮を述べ、表彰文の寫しも送つてくれました、此の人なども左様に努力しましたからこそ二年位の間に表彰の光榮に浴したことを思ひます、何事によらず努力が第一です。

川崎課長 調査方法は昭和三年に改正され四年から實施されたのですが、鈴木さんの小票調査はその何年前ですか

鈴木主任 大正十年頃からと思ひます、ボロ紙へ謄寫版で刷りました。

× × ×

以上を以て與へられた問題に就ての意見交換は大体終了し、更に一層打ちくつろいて一般統計に關する座談に花を咲かせた。

豊田 家禽調査は學校兒童と私共と一ケ年つゝ交互にやつてゐますが、統計思想普及の上からも、あれは毎年兒童にやつて貰ふことにしたらよからうと思ふ。

大曾根校長 小學校の兒童に統計のお手傳をさせていたゞくことは、先づ第一に自分の村をよく知ることになりますから愛郷の氣持も出て來るし、住みよい村を建設といふ方面からしても大へん結構に存じます、さういふ点から郷土調査はどこでも子供にやらせることになつてゐるのです。

川崎課長 縣の規定では家禽調査は學校の先生方と協力の上兒童をしてやらし

てもよいといふことになつてゐます、之れは學校自身からいつても非常になつてゐること、第一兒童に數學の觀念をより多く持たせる、また兒童の調査して來たものを教材に使つて、兒童をして集計させたのを役場へ廻すことにしますれば一層効果的であると信じます。

大曾根校長 これは前任地の話ですが、自分の家の鶏は一ケ年何箇位卵を産むのか、餌料が何程かかるか、收支が償つていくかどうかサツパリわからずにをるのが多いやうでした。

金澤 田の小票を改正して一枚の何年も用ひられるやうには出來ませんでせうか。

川崎課長 それは本村の如き優良村なら結構ですが、良くない町村では絶対に駄目です、前年のを見て次の年には机の上で計算するといふ横着が出来るくらいいけないのです、一部優良町村にはそれよりもが縣全体からでは實施は困

難です、近頃では概して良くなりまして久慈郡の如きも思はしくないのはタツタ三ヶ村だけです、斯様なわけで今少し待つて貰つたら御希望に副ふやうな改正が多分實現されることと思ひます。

河井 坪刈は骨折つた割に効がないといふのでありますれば寧ろ之を廢止するの御意向はないのでせうか。

川崎課長 農林省の定めで今直ちにどうするといふわけにも参りませんが、各縣共これには相當意見があり、農林省も種々考慮されて、たゞに坪刈ばかりでなく農林統計全般に亘つて改正の機運が見えてゐるやうです、坪刈をよすか、對人を探るか、對地をよすかなど意見がまち／＼ですが改正の機運に向つてゐる様に見受けられます。大變長くなりました、またいろ／＼有益なお話を承りました有難う御座います。

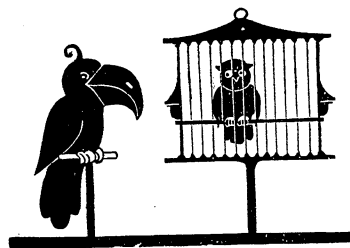
和田村長 これで閉會にいたします、本日は早々御出席下され、長い時間眞面

目にお話下さいましたことは本村にとり定に喜びにたへません、尙ほ川崎統計課長には態々御臨席、いろ／＼御指導をいたゞき感謝に堪へません。

勤農四季の歌（水稻）

北相馬郡坂手 染谷末畝

春の休みに藁細工
空俵編んで検査受け
數多を得むと豫想して
暮の笑顔は俵かず
夏の初めに苗代を
苗丈實丈と肥料して
害虫驅除やら田稈抜き
田植は成るべく晴天に
温度加り根付よし
終れば眞近に田の草と
草より稻の上根切り
秋の彼岸に既に草や
穂首かしげて實入告ぐ
稻を刈取り小田掛けて
秋は忙し取入に
冬の日なで脱穀し
等級得るには乾燥と
扱指機械で玄米に
笑顔で重ねる米俵（終）



實務道場

統計調査の葉【9】

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはしめて完全なる國策は生れる

農人にさちあれと

五月の太陽は輝く

晩春から夏へかけての注意

大空に高く薫風を一ぱいにはらんでそり立つて居た五月曠も、何時しか影をひそめて今は只棹ばかりが、ラヂオのアンテナの様に残つて居る農村風景、此の棹ばかりが残されて居るのは農家が如何に多忙なるかを如實に物語

るものである。
苗代の手入、田の耕耘、畑の播付、植付に加ふるに麥の收穫、菜種の收穫蠶の飼育、人と云はず、馬と云はず身も細る程働き続け、省みる者もなき豚の兒迄が、ひもじさに叫び聲をあげる

のが今頃の状態である。

此の多忙な時期こそ統計調査員として最も大切な時期で、耕地に於ける各種作物の段別を捉へるのも此れ迄の間だ、此の時期を過ぐれば、既に耕地に作物はなく誰が作つたか、何を作付してあつたか、皆目調査することが出来ない様な場合が無いとも限らない。
前年の統計事務の監査に基き、其の成績の充分で無かつた一部町村に對しては四月より五月に掛けて指導を行つ

たが、他の優良町村と同様本年こそ此等の町村も完全な調査をして欲しいものだ「一年の計は元旦にあり」と云ふが統計調査では「一年の調査は春季調査の如何にあり」で先づ以て春季に充分な準備をして、之が調査を行へば此の調査票にて夏季、秋季の調査も完全に行へるのだ。

その準備とは何か、これは一月號に詳しく述べて置いたが此の外原簿の加除整理、耕地圖の訂正は常に行つて置

く必要があるのである。

夏期調査に屬する作物は大豆、小豆インゲンマメ、サ、ゲ、ラクカセイ、キウリ、シロウリ、カボチャ、マクワウリ、ナス、トマト、花百合、大根（夏播）キャベージ（春播）、ミツバ、甘藷馬鈴薯、サトイモ、トウモロコシ、シヨウガ、食用ユリ、コンニャクイモ、トウガラシ、ゴマ、エゴマ、タイマ、ラミ、アマ、イチビ、ヘチマ、ハアイジヨチユウギク、ミワタ、ハツカ、

ヤクウニンジン、ハゼ、コウゾ、ミツマタ等で、七月八月の二ヶ月中に調査し、その反別を九月十日迄に市町村長に報告いたすのであるが、コンニャクイモの如く、たとへ作付してあつても其の年收穫しないものゝある場合に收穫したものゝ收穫無きものと此の反別を區別して報告する必要がある。
尙養蠶の調査其の他に就ても以下記載する處の注意を参照して誤調の無い様にして貰ひたい。

【麥豫想收穫高】

（市町村報告期五月二十三日限）

本表は五月二十日現在に依つて調査し極めて短い期間の五月二十三日中に縣廳へ到達する様報告するのでありますから報告が遅れない様特に御手配を願ひます。

統計調査員は市町村長の定めた報告期限迄に農産物調査方法に依つて一筆

毎に實地踏査を終らねばなりません、それで作付反別調査票の整理集計を遂げ集計表と共に該役所、役場へ提出するのであります。

それで豫想收穫高は二十日現在の實際の状況を巡回調査し且つ精農家及農會役員等數名の意見をも徴し田、畑各別の上、中、下作柄毎に一反歩當の豫想收穫高を決定して作付反別から無收穫見込反別を控除した各該當の段別に

乗じて豫想收穫高を決定算出するのであります。

尙市町村の報告で前年收穫高欄には前年實收穫高を記載すべき筈なるに前年の豫想收穫高を誤載する向もありますから注意を願ひます。

次に備考欄へは前年との作付反別の増減事由並に氣候の適否、施肥の多少發育の経過及病蟲害、風水害の有無等所定事項は必ず詳細に説明すること

あります。

〔桑 苗〕

（市町村報告期 六月十五日限）

前年六月より其の年五月に至る期間に於て苗木生産に従事した戸数を調査するのです、苗木は養成済のもの、數量を調査するのですが、砧木又は原苗として使用した數量は調査の必要がありません、尙成表に際し注意を願いたいのは管苗であります、管苗は未だ養成済にならないから調査の必要はありませんが、次年に於て養成済のものは代出として調査するのであります。

〔春蠶豫想收穫高〕

（市町村報告期 六月二十日限）

本表は六月十五日現在に依り擔當區内の各飼育者を巡回して實際の状況を調査し、尙當業者の意見をも徴して、其の區内に於ける蠶種一瓦當の豫想收穫高を決定し、之に掃立數量を乗じて

算出するので、若し無收穫見込數量ある時は之を除外したる掃立數量に乗するので、前年收穫高へは前年に於ける實收穫高を記載するのですが、前年の豫想收穫高を誤て記載したり、又備考の記述を略する向がありますから特に注意を願ひます。

〔春 蠶〕

（市町村報告期 七月十五日限）

養蠶調査方法に據つて收穫の都度調査するのですが、飼育者は課税の標準等にされるものと誤解して、兎角隠蔽する傾向がありますから養蠶組合の資料や、蠶況其の他周囲の状況より觀察して正確なる資料を蒐集する様願ひます、戸数は其の季節に於て養蠶に従事した凡ての戸数を調べるのです、蠶種掃立數量は中途で投棄したものでも一旦掃立を爲したるものは洩らさず調査せねばならないのですが、往々洩らす向がありますから注意を要します、尙上

繭、玉繭、屑繭と區別してありますが上繭とは汚染せざる完全なるもので屑繭とは上、玉繭以外の俗に言ふビシヨノビ等と稱するものは全部調査するのですが、自家用に供したものを除く向がありますから特に注意を願ひたい。

〔桑 畑〕

（市町村報告期 七月十五日限）

本表は農産物調査方法に依り調査すべきもので、例へば株葉の樹齡に達しなくとも洩れなく調査されたい。

畑の本畑には桑を主作物とする純粹の畑反別を、畑の其の他の欄へは他の作物例へば間作混作せられたるものを仕立方に依り夫々調査されたいのです、其の他の欄には畦畔其の他以外に栽培せられたるものを仕立方に依り反別を見積り計上すべきであります。前年の例を見るに春蠶に於て桑葉過剰の爲め刈取ざる反別を立通しとして調査する向きもありますから注意されたい。

〔麥〕

（市町村報告期 七月十五日限）

作付段別は農産物調査方法に依つて實地調査を遂げた反別を計上するのでありますから、豫想收穫高表報告の際報告したる段別と一致する筈であります、若し其の後調査の結果に調査洩れ又は誤算ありたることを發見したるときは、之を訂正して必ず其の事由を數字を以て備考欄に説明する事を忘れてはなりません。收穫高は作柄毎に決定した一反歩收穫高に右作柄別に調査したる段別を乗じ算出の上合計を掲上するのであります、尙單價は當該收穫季節に於ける即ち五六月頃の平均價格に依るべきで、麥表作成當時の價格に依るべきものではありません。

その他備考には豫想收穫高及前年收穫高に比しての増減したる事由を詳細記載するほか、氣候の適否、施肥の多少、發育の経過及病蟲害、風水害の有

無等を記述するのであります。

〔果 樹 苗〕

（市町村報告期 七月十五日限）

本表は農産物調査方法に依り、作付反別調査の際豫の調査し置き、更に作人に就て其の種類數量を確め正確を期せられたい。生産戸数は前年七月より其の年六月に至る間に於て果樹苗木生産に従事したる戸数を調査すべきであります、苗木は苗圃にある現在數にあわして調査期間内に於て移植に適するもの並に移植した數量を、又配付販賣した數量價額を調べられたいのです。

〔茶 畑〕

（市町村報告期 七月十五日限）

本表は農産物調査方法に依り調査し例へば株葉の樹齡に達しないものと雖も其の反別は調査すべきもので普通株葉樹齡は四年位です畑の欄には茶を主作物とする反別及混作、間作された反別

を其の他の欄には畦畔其他、畑以外に栽培された反別を見積り計上されたい

〔綠肥用作物〕

（市町村報告期 七月末日限）

本表も農産物調査方法に依り調査された作付反別を調査するもので、春時秋時たるとを問はず綠肥の目的を以て栽培したるものは總て調査するもので作付後病虫風水害等の爲收穫皆無となつた場合でも作付反別は調査するものです、作物栽培の目的が綠肥なる場合には之を家畜の飼料にしたるものでも調査すべきものであります、尙其の目的が最初より家畜の飼料とするときは調査の要はありません。價額の調査であります、實際賣買されないから至難であります、大体肥料成分に基きて算出する外はありません。大体レンゲ生百貫モクシク八十貫の價額は、大豆粕一枚の價額に略々匹敵しますから、其れに依り算定せられたい。

我が統計關係者に

輝く大臣賞

優越を誇る茨城・千葉・長野

全國で斷然優秀な成績

選獎12名

農林省では市町村統計従事員で、滿五年以上農林統計調査事務に繼續從事し、之が改善刷新に貢獻するところ顯著なものを、其の人物並に事蹟を考査して、昭和十年度より毎年若干名宛選獎することとなり、先きに夫々入選中のところ去る三月十六日を以て全國の市町村書記並調査員中より三百五十四名が選ばれ、農林大臣より選獎の榮譽に浴した。

本縣に於ては左の十二名が其の選に入り、賀美村助川書記は銀盃、鈴木、根本兩書記、野上、諸澤、植木三調査

員は木杯を、其の他は選獎狀を授與せられ之が傳達式も夫々研究會等の席上に於て舉行され統計課長より傳達された。

表彰された光榮の人々は次の通りで尙ほ今後の努力如何によつては更に一層の榮譽を荷ひうるわけである。

銀杯壹箇

久慈郡賀美村書記 助川 國勝

木杯壹箇宛

久慈郡染和田村書記 鈴木 榮一

那珂郡佐野村書記 根本 富男

久慈郡山田村調査員 野上 幾

那珂郡野口村調査員 諸澤 清
眞壁郡關本町調査員 植木 一也

選獎狀

稻敷郡柴崎村書記勳八等 油原 眞
猿島郡長田村調査員 橋本福次郎
多賀郡鮎川村調査員 益子 龜太
眞壁郡大寶村調査員 横瀬 福松
新治郡新治村調査員 石毛 彦助
鹿島郡中野村調査員 大川貞市郎

選獎狀

職氏名

多年農林統計調査ニ從事シ精勵恪勤常ニ研鑽ニ努メ以テ農林統計ノ改善刷新ニ貢獻シタル功績顯著ナリ將來一層奮勵以テ本調査ノ實績向上ニ盡瘁アランコトヲ望ム

右選獎シ(銀)(木)杯壹箇ヲ授與ス

(右選獎ス)

昭和十一年三月十六日

農林大臣從三位勳二等 島田俊雄

然して之が選獎者を道府縣別とする
と左の如し

道府縣	銀杯	木杯	選獎狀のみ	計
北海道	一	四	六	一一
青森	一	三	四	八
岩手	一	三	四	八
宮城	一	三	四	八
秋田	一	三	四	八
山形	一	三	四	八
福島	一	三	四	八
茨城	一	三	四	八
栃木	一	三	四	八
群馬	一	三	四	八
埼玉	一	三	四	八
千葉	一	三	四	八
東京	一	三	四	八
神奈川	一	三	四	八
新潟	一	三	四	八
富山	一	三	四	八
石川	一	三	四	八
福井	一	三	四	八
山梨	一	三	四	八
長野	一	三	四	八
岐阜	一	三	四	八
靜岡	一	三	四	八

愛知	一	三	六	一〇
三重	一	三	三	七
滋賀	一	三	三	七
京都	一	三	三	七
大阪	一	三	三	七
兵庫	一	三	三	七
奈良	一	三	三	七
和歌山	一	三	三	七
鳥取	一	三	三	七
島根	一	三	三	七
岡山	一	三	三	七
廣島	一	三	三	七
山口	一	三	三	七
徳島	一	三	三	七
香川	一	三	三	七
愛媛	一	三	三	七
高知	一	三	三	七
福岡	一	三	三	七
佐賀	一	三	三	七
長崎	一	三	三	七
熊本	一	三	三	七
大分	一	三	三	七
宮崎	一	三	三	七
鹿兒島	一	三	三	七

沖繩 一
計 四七 一四〇 一六七 三五四
以上の通りで十二名といふ多數の選獎者を出したのは本縣と千葉、長野の三縣のみで他の府縣は孰れも少數である、これは内申數の少きにも依るのであらうが、其の調査従事員の平素の努力と事務の成績を對照としたもので、特殊優秀の成績をあげえたるわが茨城は正に優越感を誇るべきであるが、同時に其の名譽と責任のため今後大いに努力せねばならぬことは勿論である。

◎米の榮養價值

近頃榮養價值といつたやうなことが、かなりやかましくなつて追々各府縣にも榮養技師の配置をみることになるであらうがわれわれの日常食とする米について考へてみると榮養素の含有量は玄米が一番で、混砂米が最も少い、昨今流行の七分搗は其の中間をいつてゐるが、消化の点からいふと白米が一番よい、半搗米とか玄米とかも其の人の胃腸の健康程度によつてはきまるのであるが、胃袋の丈夫でない人には玄米食は考へものだ



地各統計雜信

調査員諸君
何なりと奮
つて御通信
を願ひます

水戸市調査員會

五月四日水戸市役所樓上に於て午前
十時より開會、虎口擔任屬出席、縣よ
り提出せし會議要項に基き詳細説明を
なしたる後、市統計事務の刷新向上に
付種々懇談を重ね各調査區の春季調査
實施期日並麥の作柄等位を決定の上午
後一時終了、次いで霞町の師範學校實
習地に至り一同實地調査を施行し午後
二時四十分散會した。(口繪參照)

新治支部研究會

四月十四日土浦町公會堂に於て龔に
農林大臣より選奨せられた新治村調査

一、山川村調査員野上幾及統計協會總
裁より表彰されたる世喜村書記古德武
雄、小里村調査員畠島仙三郎、依上村
調査員坂本東一の諸氏に對し川崎課長
より表彰狀を、武藤支部長より賞品を
授與し川崎課長の式辭、和田山田村助
役の祝辭、表彰者總代助川氏の答辭あ
りて表彰式を閉ち、續て總會に移り武
藤支部長の挨拶に次て郡司屬より縣提
出事項に就て説明あり、十八日も前日
に引續き開會、縣提出事項及學事年報
作成上の注意に關し郡司屬より説明が
あつた。

那珂郡支部總會

那珂郡支部では四月十六、十七の兩
日湊町役場に各町村主任者が出席して
總會を開催、縣より川崎統計課長及渡
邊屬が出席した、十六日には開會に先
んじ農林大臣より選奨せられたる佐野
村書記根本富男、野口村統計調査員諸
岡清及協會總裁より表彰されたる嶺郷

員石毛彦助氏並に統計協會總裁より表
彰せられた藤澤村書記來栖吉氏、山莊
村書記勝村新次郎氏、安飾村調査員立
花文彌氏、高濱町全大塚光氏の傳達式
を兼ね統計事務研究會を開催した、午
前十時開會村山幹事開會の辭を述べた
る後、川崎統計課長より激勵の挨拶あ
り續いて虎口屬縣提出事項に就き説明
をなし質疑に答へ、次いて傳達式に移
り前記受賞者諸氏に對し夫々川崎副會
長より賞品賞狀を傳達して一場の祝辭
を述べ、來賓高濱町石崎助役の祝詞、
受賞者總代來栖書記の答辭ありて式を
終へた、尙受賞者諸氏に對しては全郡
支部より副賞を授與した。

村書記青木金之介、佐野村統計調査員
大塚英、額田村統計調査員中島政壽の
諸氏に對し川崎統計課長より表彰狀
を、横須賀副支部長より賞品を授與し
川崎課長の式辭、岡崎副支部長、大内
湊町長の祝辭表彰者總代根本氏の答辭
あり、式終了の後續て總會に移り横須
賀副支部長の開旨に次ぎ渡邊屬より縣
提出會議事項につき詳細説明あり、十
八日には學事年報作成上の注意等詳細
渡邊屬から説明を與へ閉會した。

猿島郡支部總會

猿島郡支部では四月十五日郡農會樓
上に各町村主任者が出席して總會を開
催、縣より川崎統計課長及筑内主事補
が出席した、遠藤支部長の開會の辭に
次ぎ農林大臣より選奨せられたる長由
村統計調査員橋本福次郎氏及本縣統計
協會より表彰された神大實村書記羽富
好、勝鹿村統計調査員三田近之進、岡
郷村統計調査員小澤常次郎の諸氏に對

多賀南部學事統計 研究會

多賀郡南部統計事務研究會は四月十
八日豊浦尋常高等小學校に於て開催し
縣よりは小林、成瀬兩屬、町村よりは
日立町を除き全町村學事主任及學校統
計主任出席、劈頭農林大臣より表彰せ
られた鮎川村統計調査員益子龜太氏に
對する表彰狀を小林屬より傳達、次に
同研究會より元鮎川村書記黑澤定男氏
に對する感謝狀の授與ありて會議に移
り、學事年報の作製並注意事項に付成
瀬屬より説明あり午後一時閉會した。

久慈支部總會

久慈郡支部では四月十七、十八の兩
日自治會館に各町村主任者が出席して
總會を開催、縣より川崎統計課長及郡
司屬が出席した、十七日には開會に先
たち農林大臣より選奨せられた賀美村
書記功川國勝、染和田村書記鈴木榮

し川崎統計課長より選奨狀並表彰狀を
傳達し、遠藤支部長より賞品を授け、
川崎統計課長の式辭、遠藤支部長の祝
辭、表彰者總代羽富氏の答辭あり、そ
れより總會に移り筑内主事補より縣提
出事項に就て説明をなし閉會した。

鹿島郡支部總會

鹿島郡支部では四月十日諏訪村小學
校に於て總會を開き、酒井支部長の開
會の辭に次いで龔に農林大臣より選奨
せられたる中野村統計調査員大川貞市
郎氏並に統計協會總裁より表彰せられ
た徳宿村書記高崎淳恵氏及大同村書記
大崎健爾氏に對する表彰狀傳達式を舉
行し、川崎副會長より夫々傳達して式
辭を述べ、酒井支部長の祝辭及受賞者
總代高崎書記の答辭ありて傳達式を了
へ、更に引續き支部長提出の昭和十一
年度支部事業に關する件外一件に付協
議を遂げ異議なく可決の後、研究會に
移り齋藤囑託より縣提出事項に就て説

明をなし質疑に答へ鋭意研究を遂げて盛會裡に終了した。

那珂西部研究会

那珂郡統計事務研究会西部支部では四月九日全郡大場村小學校に於て、統計事務研究会を開き、縣統計課より郡擔任の渡邊屬が臨席、午前十時三十分寺門大場村長の開旨について渡邊屬より縣提出の農林統計につき詳細説明の後質疑應答を重ね、孰も熱心に研究せられ午後一時三十分閉會した、出席者は左の通りである

大場村宇留野助役、川澄書記、三村主任書記、三村書記、四倉書記、片岡書記、小瀬村橋本書記、大宮町阿久津書記、瓜連町龍崎囑託、上野村萩谷書記、玉川村小田部書記、大賀村大森書記、山方村根本書記、鹽田村岡崎書記、野口村西村書記、檜澤村岡崎書記、嶽鄉村青木書記、長倉村古田土書記、八里村田澤書記

西茨城支部總會

統計協會西茨城郡支部總會は四月九日笠間町役場樓上に開催、縣より川崎統計課長及成瀬屬臨席、曩に紀元節に當り協會總裁より表彰せられた大池田村書記川松勤五郎氏、岩間町統計調査員南指原豊氏兩名に對する表彰狀の傳達式を嚴肅裡に舉行し、川崎副會長之を傳達して式辭を述べ來賓の祝辭、授賞者の答辭等ありて閉式し、縣提出議案に付成瀬屬より詳細なる説明あり、質疑に答へ次に同支部議案たる昭和九年度支部決算、同十一年度支部豫算につき結解支部副長の説明あり満場一致可決して閉會した。

北相馬支部總會

北相馬郡支部では四月八日元自治會館に各町村主任者が出席して總會を開催、縣より川崎統計課長及菊池主事補が出席した、新井支部長の開辭に次ぎ

曩に本縣統計協會より表彰されたる高野村調査員瀨尾宗四郎氏及東文間村調査員糸賀喜一郎氏に對し川崎統計課長より表彰狀を、新井支部長より賞品を授與し、川崎課長の式辭、玉村東文間村長の祝辭、表彰者總代瀨尾氏の答辭ありたる後新井支部長より挨拶があつて總會に移り菊池主事補より縣提出事項の就て説明があつた。

聯合統計調査員會

結城郡町村長會第四支部主催、水海道町外六ヶ村聯合の統計調査員會は去る四月七日午前十時より水海道町尋常高等小學校に於て開催した、柴沼水海道町助役より時運の進展と共に社會がより精密なる統計數字を要求しつゝある所以を説いて調査員の活動を促し、續いて縣より臨席の川崎統計課長より經濟更正と統計及個人經濟と統計との關聯を述べて統計の重要な所以を説明し、進んで昭和十年度統計事務監査

の結果結城郡統計調査の成績は他郡に比し下位にあるは甚だ遺憾に堪へないと一段の努力を要望し、終つて直ちに主催者側に於て用意ありたる水海道町第二調査員宇高野地及峰下の實查地を當該擔當調査員堀越氏の案内で全員が夫々實地に調査を施行し、終つて小泉屬より實查地一筆毎に詳細に之が調査及取扱方に就き説明、注意を與へたるのち縣提出會議要項により研究討議し午後三時半閉會した。

出席者は左の如く役場員七名、調査員七十一名で頗る緊張した集りであつた。

△縣 川崎統計課長 小泉屬△水海道町柴沼助役、小島書記(調査員)杉山利助、堀越留吉、倉持巳之助、山中記、野口常一郎、五木田清吉、古谷金次郎、荒井藤四郎、原田兵衛、五木田保太郎、片野新吾、山野井吉雄、淀名和辰藏、△大生村廣瀬書記(調査員)永瀬吉次郎、落合光三磯山喜八郎、木村谷四郎、片見藤作、杉山謙、須田嘉一郎、本橋泰三郎、宗津見

正一郎、秋葉勇助、渡邊勝馬、永瀬永一△三妻村谷澤書記(調査員)谷澤七郎、小口正夫、皆葉保、小林清次郎、倉持藤吉石川藤作、高野泰市、山崎新吉、有田七太郎、柳田長吉、皆葉角治郎、大山吉三郎△五箇村星野書記(調査員)橋本碩二、坂入長吉、柴芝大、大塚庄三郎、廣瀬源太郎、澤田豊壽、角野映、小野松之助、吉原芳次郎△豊岡村飯田書記(調査員)本田作治郎、中島新三郎、染谷政吉、小林春次、荒木貞藏、石塚拾吉、石塚春吉、中島淺之助△菅原村大根書記補(調査員)戸塚仙松、大越兼吉、戸塚森之助、中野伊重郎、北島繁藏、高橋由之助、山崎伊一郎、岡野吉重郎、大野角次、香山高之助、新井與三郎、齋藤善四郎△大花羽村石塚助役、(調査員)渡邊茂吉、深津吉二郎、古谷東郷、草間敏、石塚常吉

眞壁郡支部總會

眞壁郡支部總會は去る四月六日下妻町役場樓上に於て開催、縣より川崎統計課長高島屬臨席、午前十時澤邊支部長開會を宣し、三月十六日農林大臣よ

り選奨せられたる關本町調査員植木一也、大實村調査員横瀬福松及紀元の佳辰に縣統計協會長より表彰せられたる中村書記、小島千之丞、長嶺村調査員根本正、五所村調査員田沼安治諸氏に對する傳達式を舉行し池田町村長會長の祝辭めり、終つて統計事務研究會に移り三月七日支部長より提出の〔答申事項〕昭和十年度中各町村ニ於ケル調査員指導訓練實施ノ狀況並其ノ結果

〔諮問事項〕町村調査員ノ活動ヲ完全ナラシムル方法如何

に對し各部會毎に發表ありたる後縣提出議案に依り高島屬より詳細説明あり出席者交々立つて意見を述べ或は疑問を質し熱心に研究を行つた。

行方郡支部總會

行方郡支部では去る三月三十一日午前十一時延方尋常高等小學校内に於て支部總會を開催した、紀元節のよき日

に統計功勞者として統計協會總裁より表彰せられたる武田村書記及大生原村農林商工統計調査員箕輪甚之助の兩氏に對する表彰狀傳達式をあげ川崎副會長の式辭、來賓の祝詞、被表彰者總代の答辭あり次いで郡支部の表彰式に移り行方村書記河須崎肇外六ヶ町村統計主任書記に對する表彰狀及記念品を支部長より授與し川崎副會長祝詞を兼ね一場の訓示を與へて、次に會議事項の變更をなし縣提出事項に付ては小林屬より逐次説明各事項の質疑應答を重ね午後一時四十分散會した、出席者は小貫支部長外各町村統計主任書記等二十二名であつた。

多賀郡支部總會

統計協會多賀郡支部總會は三月廿八日助川町役場に於て開催され、縣より川崎統計課長、成瀬屬臨席午前十時三十分より開會した、開會に先たち二月十一日縣統計協會から表彰せられた大

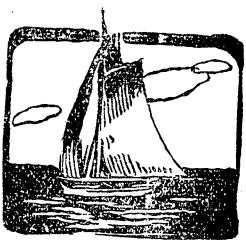
津町書記二田勘兵衛氏、日立町統計調査員沼田晴氏に對する表彰狀並記念品の授與ありて後會議に移り、會則の變更、支部長並支部副長の改選あり、縣提出の議案に付成瀬屬より詳細なる説明ありて後事務上につき種々質疑に應答し午後一時三十分閉會した、尚同日支部長には松原町助役大高新一郎氏を推し副支部長には坂上村助役丸山寅松氏、南中郷村書記瀧千俊氏が再選した

栃木統計課員來縣

去る三月二十五日栃木縣統計主事補吉田要三郎氏は、久慈郡賀美村を來訪本縣施行の米生産統計並一般農林統計調査方法に付約三時間に涉り親しく視察、助川主任の調査方法に關する説明の後、調査用紙の領付を受け午餐の後千葉縣優良村に向はれたが吉田氏は、茨城縣の調査方法の徹底してをること並に本省への報告の迅速なものには驚歎しましたと絶讃の言葉を殘して行つた

東郡支部總會

東茨城郡支部總會は四月十一日午前十時三十分東茨城郡町村長會樓上に於て開催、縣より川崎統計課長及小林、虎口、郡司、成瀬、吉見の各屬が出席した。江橋幹事會長代理として開會の挨拶後、二月十一日紀元節の佳辰を卜し統計協會總裁より表彰せられた綠岡村渡邊拾吉、白河村郡司謹一、岩船村富田富治、水戸市山田卯之吉の各統計調査員諸氏に對する表彰狀傳達式を舉行、川崎副會長より之を傳達し式辭を述べ綠岡村長廻塚常次郎氏の祝辭、受賞者代表富田富治氏の答辭あり、次いで川崎統計課長より改正細則の實施に付指示する所あり會議事項につき吉見屬より説明質疑應答を重ね、更に小林、虎口、郡司、成瀬の各屬より調査員の指導其の他に就き有益なる經驗談等ありて午後一時三十分閉會した、出席者は横須賀上大野村助役外三十一名である。



躍進また躍進の 昨年の水産界

總額で四百二十萬圓の増加

水産製造物最も目ざまし

久慈郡の百七十五萬四千六百三十六圓、那珂郡の百六十一萬七千三圓、東茨城郡の六十萬八千六百九十五圓、新治郡の二十八萬二千一圓、行方郡の二十五萬六千六百三十四圓の順位となり、其の他十萬圓を超えざるものは稻敷、猿島、北相馬、眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城の順位である。

昭和十年に於ける水産物總價額は千二百萬千十五圓にして之を種類別に觀れば沿岸漁獲物に於て四百十九萬七百九十三圓、遠洋漁業に於て百十五萬六千七百七十八圓、水産養殖に於て六萬二千二百八十圓、水産製造物に於て六百五十九萬千六百六十四圓となる、尙之を前年と對比すれば總額に於て四百十九萬千九百九十四圓(五割三分七厘)を増し、沿岸漁獲物に於ては百三十七萬二千九百八十八圓(四割八分七厘)水産製造物に於ては三百二萬五千三百四十四圓(八割四分八厘)水産養殖に於ては二萬五千八百六十圓(七割一分〇厘)を孰れも増加し、遠洋漁業に於ては二十三萬二千九百九十八圓(一割六分七厘)の減少を示した。

而して總額を郡市別に觀るときは鹿島郡の四百二十九萬千二百六十九圓第一位を占め、多賀郡の三百五萬九千四百圓、

更に之を種類別に各郡の順位を觀れば沿岸漁獲物に於ては鹿島郡の百六十八萬九千九百六十八圓第一位を占め之に亞ぐは多賀郡の九十三萬六千一百一圓、久慈郡の五十二萬四千二百三十七圓、那珂郡の四十一萬八千七百七十七圓、東茨城郡の二十七萬四千七百十圓、行方郡の十三萬七千六百八十八圓、新治郡の十一萬二千四百七十七圓で十萬圓に充たないのは稻敷、北相馬、猿島、眞壁、結城、筑波、水戸、西茨城の各郡である。

遠洋漁業に於ては那珂郡の八十萬二千五百十五圓第一位を占め、之に亞ぐは多賀郡の十八萬八千七百三圓、東茨城郡の八萬九千八十圓、久慈郡の五萬千八百八十圓、鹿島郡の二萬五千圓、水産養殖に於ては東茨城郡の二萬五千九百九十五圓第一位を占め之に亞ぐは猿島郡の一萬八百六十四圓、新治郡の一萬八百七圓、那珂郡の五千六百三十六圓、筑波郡の二千八百五十八圓、結城郡の二千七十一圓、鹿島郡の千五百十圓、行方郡の千四百五十五圓、稻敷郡の千二百九十圓、久慈郡の千七百七十八圓、水戸市の千五十圓といふ順で其の他は千圓以内

である。
水産製造物は逐年優勢を示し鹿島郡の二百五十七萬五千六百九十一圓第一位を占め、之に亞ぐは多賀郡の百九十三萬九千五百四十六圓、久慈郡の百十七萬七千三百四十一圓、那珂郡の三十九萬千七百七十五圓、東茨城郡の二十二萬三千三百十圓、新治郡の十五萬八千七百七十七圓、行方郡の十一萬七千五百六十一圓、稻敷郡の七千八百二十三圓の順位となる。
之が種類を郡市別に示せば次の如し

郡市前	總數	内		
		沿岸漁獲物	遠洋漁業	水産養殖
水戸	二、三〇六	一、二五六	一、〇五〇	二二、三三〇
東茨城	六〇八、六九五	二七四、七一〇	八九、〇八〇	二二、三三〇
西茨城	九一七	六一六	三〇一	一
那珂	一、六一七、〇〇三	四一八、〇七七	八〇二、一一五	三九一、一七五
久慈	一、七五四、六三六	五二四、二三七	五一、八八〇	一、一七三、三四一
多賀	三、〇五九、一〇四	九三〇、六〇一	一八八、七〇三	二、五七五、六九一
鹿島	四、二九一、二六九	一、六八九、〇六八	二五、〇〇〇	一、一七三、三四一
行方	二五六、六三四	一三七、六一八	一	一、一七三、三四一
稻敷	六四、五七六	五五、四六三	一	七、八二三

新治	二八二、〇〇一	一一二、四七七	一〇、八〇七	一五八、七一一
筑波	八、〇一九	五、一六一	二、八五八	一
眞壁	九、八四四	九、〇六三	七八一	一
結城	九、〇八九	七、〇一八	二、〇七一	一
猿島	二二、〇〇六	一一、一四二	一〇、八六四	一
北相馬	一三、九一六	一三、二八六	六三〇	一
合計	一一、〇〇一、〇一五	四、一九〇、七九三	六二、二八〇	六、五九一、一六四

水産業者 尙ほ十年に於て是等漁撈養殖、製造に従事した水産業者は三萬四百九十七人にして之を前年に比すれば千九百四十二人(〇割六分八厘)の増加を示した内容次の如し

本業副業別	男女別	業主被用者別	業主	
			被用者	主
本業	男	二四、〇四七	二一、一九七	九、三〇〇
副業	女	六、四九〇	二二、一八二	四二〇
合計		一四、一一〇	七、八九五	

漁船 また十年に於ける漁船数は總計六千五百二十八隻で、内動力を有せざる漁船五千九百七十九隻動力を有する漁船五百四十九隻である、次に同年内に新造せる船

数は四百五隻で内動力を有するもの八十九隻、同年内に廢船となつたものは四百六十九隻である、之を前年に比べると年末現在船數に於て、五十四隻(〇割〇分八厘)年内新造船數に

於て三百八隻(四割三分二厘)年内廢用船數に於て、百三十六隻(二割二分五厘)の何れも減少を示した、更に漁船數を郡市別に觀れば鹿島郡の千七十五隻で首位を占め、之に亞ぐは多賀郡の八百六十八隻、行方郡の八百三十六隻、稻敷郡の八百

九隻、東茨城郡の七百七十六隻、新治郡の六百七隻、久慈郡の三百四十八隻、猿島郡の百八十七隻、北相馬郡の百四十四隻にして以下は百隻を超えざるものにして眞壁、結城、筑波水戸市の順位である。

優 良 町 村 視 察

(口 繪 寫 眞 參 照)

白鳥村長其他一行

鹿島郡白鳥村では四月二十八日戸島村長引率の下に菅谷主任書記及調査員十二名眞壁郡大寶村を視察したが途中縣統計課に立寄り郡司處の案内で廳内を見學の上、一路大寶村に到り詳細に視察して歸村した、同村調査員は昨年は久慈郡賀美村を視察して大いに考ふる處あり、本年は更に拍車を加へ郡西部地方に於ける狀況を視察し、統計優良村を目指して躍進しつゝあり統

計事務は全く面目を一新した

新治郡林村調査員

新治郡林村統計調査員十名は小松崎書記引率のもとに四月二十八日久慈郡賀美村視察の途次縣統計課を訪れ課内を見學して賀美に至り詳細に視察研究して即日歸村した、年來の計畫が本年實現した譯でいよゝ結果して一段の向上發達を目指して精進し、これまた大いに面目を改めた

豊岡村統計調査員

結城郡豊岡村統計調査員も四月十八日那珂郡の模範村佐野村を視察し、根本主任の懇切な説明を聽いて大いに得る處あつたが、途中縣廳へ立寄り關、小泉兩處の案内で廳内を見學した

世喜村調査員

久慈郡世喜村では統計事務視察を企畫し三月十七日主任書記古徳武雄氏調査員十二名を引率自動車を驅つて早朝出發、同郡賀美村を訪問視察の上夕刻歸村した

馬 匹 獎 勵 を 裏 切 っ て

馬 一 千 餘 頭 の 減 少

年と共に牛に追はれ氣味

縣 下 の 養 畜 調 べ

昭和十年末に於ける本縣の養畜(牛、馬、豚、綿羊、山羊)戸數は牛二萬八百四十六戸、馬四萬一千九百八十八戸、豚三萬五千七百七十九戸、綿羊六十四戸、山羊一千三百六十八戸で、前年に比し牛は一千三百三十八戸(〇割七分)豚は三百六戸(〇割一分)綿羊は七戸(一割二分)山羊は二百九十四戸(二割七分)を孰れも増して居るが、獨り馬のみが九百六十五戸(〇割二分)を減じて居る。

然してその飼養頭數は牛二萬二千四百七十六頭、馬四萬四千九百九十四頭、豚五萬六千四百一十一頭、綿羊百三十八頭、山羊一千九百一十一頭で前年に比するときは亦戸數と同様で牛は一千四百二十七頭(〇割七分)豚は四百四十四頭(〇割一分)

但し生産馬は一割一分の増

綿羊は十九頭(一割六分)山羊は三百九十三頭(二割六分)を増して居るが馬のみは一千百八頭(〇割二分)を減じて居る、斯の如く牛の増加の反對に馬の減少して行くのは牛は馬よりも從順で、非常に使ひよいのと、比較的馬よりも安價なものと、其の飼料が馬より低廉で済むからであらうか。

又昭和十年中に於ける生産數は牛八百五十九頭、馬一千二百二十九頭、豚三萬五千七百一十四頭、綿羊十一頭、山羊四百一十三頭で前年に比し馬は百九頭(一割一分)綿羊は七頭(十七割五分)山羊は百十二頭(三割六分)を増したが牛は二十一頭(〇割二分)豚は八百三頭(〇割二分)を減少した。郡市別は次の通りである

郡市別	飼養頭數				牛	飼養頭數				馬	飼養頭數				豚	飼養頭數				山羊
	牛	馬	豚	山羊		牛	馬	豚	山羊		牛	馬	豚	山羊		牛	馬	豚	山羊	
水戸	三	六	七	一	一	八五	三	二四七	一	二	一八二	一	一五七	六九	二	一五八	一	一五七	六九	二
東茨城	二、八八	二、八四	三、五〇	二	二	三、三七	二、八三	五、五五	三	三	五、五五	三	一五七	六九	二	一五八	一	一五七	六九	二
西茨城	四六三	二九三	一、〇五	四	六	五、六六	三、〇四	一、五五八	八	九	五、六六	三、〇四	一、五五八	八	九	五、六六	三、〇四	一、五五八	八	九
那珂	一、一三	二、六四	四、〇九	九	二六	一、五一	三、〇九	六、五八	一八	二	一、五一	三、〇九	六、五八	一八	二	一、五一	三、〇九	六、五八	一八	二
久慈	四四	五、六四	一、一三	二四	九	四七	六、五八	一、七〇	三	三	四七	六、五八	一、七〇	三	三	四七	六、五八	一、七〇	三	三
多賀	二四七	三、三三	一、四九	一	二七	三、三三	二、五五	二、五五	一	二	三、三三	二、五五	二、五五	一	二	三、三三	二、五五	二、五五	一	二
鹿島	二、二九	二、八八	四、二四	一	元	二、二四	二、八六	五、八七	一	一	二、二四	二、八六	五、八七	一	一	二、二四	二、八六	五、八七	一	一
行方	一、八五	二、〇六	一、一八	四	八三	一、九二	二、〇五	一、六九	九	一	一、九二	二、〇五	一、六九	九	一	一、九二	二、〇五	一、六九	九	一
稲敷	三、二二	二、〇六	二、四九	二	五〇	三、二九	二、〇七	四、二五	八	一	三、二九	二、〇七	四、二五	八	一	三、二九	二、〇七	四、二五	八	一
新治	一、六三	四、七六	二、七四	四	一四七	一、七六	四、七五	四、四二	三	二	一、七六	四、七五	四、四二	三	二	一、七六	四、七五	四、四二	三	二
筑波	一、六三	二、三六	二、二七	一	一〇三	一、六九	二、二五	三、六四	一	一	一、六九	二、二五	三、六四	一	一	一、六九	二、二五	三、六四	一	一
眞壁	七九〇	四、〇九	三、九五	一	三七九	八、八〇	四、〇四	六、一五	一	一	三七九	八、八〇	四、〇四	六、一五	一	三七九	八、八〇	四、〇四	六、一五	一
結城	一、六三	二、四三	三、三三	四	三二	一、八三	二、二九	五、四八	三	二	一、八三	二、二九	五、四八	三	二	一、八三	二、二九	五、四八	三	二
猿島	一、四三	二、四七	三、四八	一	三	一、六五	二、五二	五、〇〇	一	一	一、六五	二、五二	五、〇〇	一	一	一、六五	二、五二	五、〇〇	一	一
北相馬	一、〇六	一、三六	一、〇一〇	二	三三	一、〇七	一、四九	一、七八	四	二	一、〇七	一、四九	一、七八	四	二	一、〇七	一、四九	一、七八	四	二
昭和十年計	三、八四六	四、九八	三、七九	六	一、三六	三、四六	四、四九	五、六四	一八	一	三、四六	四、四九	五、六四	一八	一	三、四六	四、四九	五、六四	一八	一
昭和九年計	一九、五〇八	四二、九三	三五、四七	五七	一、〇五	二、〇九	四、三三	五、九七	二九	一	二、〇九	四、三三	五、九七	二九	一	二、〇九	四、三三	五、九七	二九	一

統計關係者大會並に統計協會長懇談會

川崎統計課長出席

三重縣及三重縣統計協會主催で四月二十一、二十二の兩日に亘り國產振興大博覽會を機として四日市、市公會堂(四日市博覽會場外四日市港頭)及宇治山田市に於て日本中部十八府縣統計關係者大會並全國道府縣統計協會長懇談會を開催、本縣からは川崎統計課長及齋藤囑託が出席した。

同大會の參會者は其の數三千に及び、劈頭村田三重縣統計課長開會を宣し、一同皇大神宮及皇居を遙拜したる後三重縣總務部長の開會の辭、同縣知事の式辭並内務、農林、商工の各大臣、資源局長官、内閣統計局長、三重縣會議長、同町村長會長等の祝辭及各道府縣よりの祝電を披露し、次いで三重縣總務部長を座長に推し別項の如き宣言、決議を異議なく拍手裡に可決し、引續き各府縣提出事項に付協議を遂げ、更に内閣統計局森統計官の講演ありて此の意義ある大會も極めて盛會裡に終り、午後は引續きて統計課長並統計協會長懇談會に移り各府縣提出の議案に就て慎重審議を行ひたる後大博覽會を見學し、國產振興上各種計畫の基礎資料を提供すべき我等統計關係者に取りては又と得難き幾多の收穫を得て大會第

一日を了し、第二日は皇大神宮の神域たる五十鈴川の邊に於て大會參會者一同神宮神部署長より神宮に關する講演を聴いてから御神樂殿に相集ひ大々神樂を奉奏して神明の御加護を得、以て現下の非常時に直面して益々我統計事務の改善刷新を計り奉公の誠を効すべく祈願をこめ、更に内宮外宮を參拜の上名残りを惜みつゝ散會した。

尙宣言、決議及各府縣の提出事項は左の通である

宣 言

内外非常ノ難局ニ膺リ國歩日ニ重大ヲ加ヘ諸般ノ施設愈々振作更張ヲ要ス

吾人統計ノ事務ニ携ハル者深ク思フ此ニ致シ協力統計ノ改善整備ニ努メ以テ躍進日本ノ盛運ニ貢献センコトヲ期ス

右宣言ス

決 議

一、吾人ハ専心統計ニ關スル智識技能ヲ養ヒ周密的確ナル統計ヲ整備シ速ニ之ヲ公表シテ時局對策ノ指針ヲ提示シ以テ其ノ本分ヲ完フセンコトヲ期ス

二、吾人ハ極力統計ニ對スル世人ノ理解ト認識トヲ深メ廣ク其ノ協翼ヲ促シ以テ使命ノ遂行ニ邁進センコトヲ期ス

府縣提出事項

- 一、農業調査實施促進ニ關スル件
- 一、師範學校、中等學校等ニ於テ統計學ヲ教授セシムルノ件
- 一、農業調査繼續施行方其筋ヘ要望ノ件

労働統計實地調査

十月十日全國一齊に

第五回労働統計實地調査は愈々今秋十月十日を期して全國一齊に施行せらるゝ筈で目下夫々準備中であるが之が關係規則等は逐々發布の豫定で今日迄に内定してゐる計畫要綱に依れば、調査内容も多少改正の点あるから左に摘録して参考に供することにする

一、調査時期 昭和十一年十月十日

二、調査範圍

1、工場 從來は原則として三十人以上の労働者を使用する工場の事業主及労働者に付て調査せられてゐたが今回は五十人以上の労働者を使用する工場に付て調査せられんとするのである但し特定の事業の種類に依り三百人以上、百人以上五十人以上と區分することは從來通りである

2、交通事業場 この交通事業に付て調査すると云ふことが今回新に計畫せられた点であり即ち労働者五十人以上を使用する左記交通事業場の事業主及び労働者に付て行はんとするものである

(イ) 鐵道運輸事務所、保線事務所等

(勞働者——現業員中雇傭員)

(ロ) 労働者災害扶助法の適用を受ける交通及運輸業並に運輸

取扱要

(ハ) 船舶運輸業(労働者——乗組普通船員)

(ニ) 郵便局、電信局及電話局

(勞働者——雇員、現業傭人、技傭人)

三、調査事項 從來通で事業主に付ては工場、交通業、事業場ノ名、全所在地、事業ノ種類、労働者現在數、一日の所定労働時間、勤務時間、全休憩時間、一ヶ月の所定休業日數、實物給與の種類、價額で労働者に付ては氏名、性別、出生年月日、出生

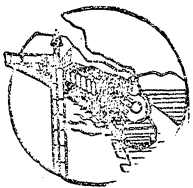
地、配偶者の有無、教育の程度、職名、就業の年月數、賃銀、實物給與の有無である

四、調査方法 申告書は事業主、労働票を用ひ地方實査は労働調査員、全副調査員之に當ることは從來通であるが今回新に加へらるべき交通業中船舶運輸業は地方長官の取扱より除外せられて逓信局長の取扱となり市町村長之を管掌すべく規定せらるゝ筈である

統計ますます重大

先年本縣でも統計が政治問題として扱はれ、縣會を賑はしたことがあつたが、去る九日の衆議院本會議においても、米穀法案に對する質問で政友會の代議士河野一郎氏によつて論議が開かれた、河野氏は本法案の審議に當りては鮮米に關する統計が極めて杜撰なるため正確な數字を得なければ正確なる結論に達し得ないといつて統計に現はれた數字の不備を指摘したのでさうだ、これに對して永田拓相は鮮米統計についてはこれを信するより外はない、併し統計の基礎については私には事情はわからぬが今後とも充分注意を拂つて正確にするつもりだと答辯した。

果して杜撰であつたか、又正確なものであるかの詮議はしばらくおき、統計が其の儘直接に、かうして衆議院の問題ともなつたといふことは、統計が如何に重要性を帯びてゐるかを如實に示すもので、われわれ統計關係者の責任のますゝ重大なるを覺えると共に、統計の完璧を期する上に、一層周密なる注意を拂はねばならなくなつたわけである。



超スピードの

合同視察記

高濱第一區 須田 生

兼て計畫中だつた統計調査員並に促成胡瓜出荷組合員、米穀検査員との合同視察を、四月七日貸切大バスによつて實行した。

プログラムは内閣統計局、千葉高等園藝學校、東京青果市場、生麥ビール會社及神田川正米市場等で、此日一日の行程が極度の時間緊縮を余儀なくされるため、早曉三時起床、五時出發の豫定を嚴守した。春先きには常につきもの曇と雨！今朝もどうかと案じられた空工合がボツリ／＼と水滴を降らして曉春の深い霧は終に雨となる、まゝ乗りかゝつた舟ではない自動車だ行く處まで行けと度胸をきめて途中幾

人かの同乗者を拾ひつゝ八時には松戸の園藝學校につく、その頃から漸く陽がさしかゝつた。前栽の植込み四季花を絶やさぬ趣好か、數々の種類の樹木が各々の特異性を發揮して密生し、なか／＼に雅致ある風景だ星野技手の知る先生の好意により温室花卉促成柵及特別經營農場を案内された、整然とした耕地には豌豆や苺やの若葉が折から今日の旅行を惠む陽光に生々として照り映え特に彼方の西洋花の白、黄、赤等色とり／＼の花の白、一つ一つは嬉々として自分達一行を歓迎するかにみえる。温室内のバナ、の巨人の指の如き房々に垂涎を催し、遠い南國の情緒を

思はせるゴム樹や、シャボテンや其他名も知れぬ鬱蒼とした潤葉樹を見るとき此處に淡いエトランジエの感じを覺えた。

× ×

スロープ一つ越した彼方の建物から嚙喰とした喇叭が聞える、多分砲工學校の授業開始か？その近くに隣する千葉縣が試みる特別農家經營地は耕作面積一町五反歩、その内果樹園六反歩は未收入地、他は蔬菜穀菽園でこれから生産する品物は皆換貨して余す所がない今年で經營三ヶ年目になるが初年の収入は三百圓、次年六百圓、三年目一千圓と果進して、近く果樹の收入によつて相當収益も上る見込みとある、昨年の賣上げ高の主なるものは苺の八十圓、トマト二百卅圓、チューリップ卅圓、大麥、甘藷六〇圓、其他等での經營のモットーは第一條件として收穫物は決して無駄にせず換貨すること、第二は地上に育成された作物は完全に

之が收穫を計り、勞力やこれに費した凡ての物質を徒勞無爲に期せしめないことである、吾等農家を經營する者機會と便宜との許す範圍にて大いに學ぶ可きだと痛感した、この庭前の櫻花まさに蕾紅にして開花はこゝ二三日の内が名殘惜しき殘花を枝頭に着けて校庭の一隅に香る梅花は薰風と共に散りに散る。

× ×

數々の印象を残してこゝを辭去し、一路帝都へ向ふ、十時半頃神田川正米市場へ着き場内に三々五々蟬集する中小賣買人が、見本賣買によつて容易に取引され得る簡單なるこの取引場の机の上に、一皿毎に盛られてある各縣の産米を比較してみると本縣産米はその色澤や、粒揃へや乾燥調製の上に尙ほ相當考慮すべきものがありはせぬかと思はれた。

尙大東京一日の正米消費量は約四萬五千俵に上ると云ふ、この偉大なる胃

町村統計主任異動 (上は新任) (括弧内舊)

昭和十一年四月一日 新治郡斗利出村

農林、商工、内務統計

町田 勘一

(酒井 貞一)

人口統計

伊藤 鶴松

(酒井 貞一)

學事統計

久野 巳之吉

(酒井 貞一)

全 四月八日

筑波郡島名村

飯塚 竹三郎

(宮本 智觀)

全 四月十五日

那珂郡國田村

高 柿三郎

(蘭部 千代吉)

全 四月二十一日

行方郡津知村

佐野 正志

(秋永 直衛)

全 四月二十三日

新治郡都和村

大 越 眞覺

(福田 勝太郎)

全 四月三十日

新治郡林村

小松崎 雅一

(皆川 源次郎)

昭和十一年五月一日

新治郡中家村

西脇 衡治

(安達 元憲)

統計調査員異動 (上は新任) (括弧内舊)

昭和十一年二月十日 東茨城郡川根村

安 島 保

(加藤 岡貞夫)

全 二月二十日

久慈郡小里村

高 里 爲彦

(佐藤 義光)

全 二月二十四日

東茨城郡岩船村

宮 本 肇

(加藤 木平次郎)

三 村 市藏

(小瀬 篤司)

小 林 千代一

(三村 正章)

全 二月二十六日

筑波郡小田村

前 川 善一郎

(白石 菊之丞)

全 二月二十九日

新治郡石岡町

秋 山 利一郎

(小松崎 義通)

全 三月一日

久慈郡高倉村

三 次 省一郎

(石井 漢)

全 三月十五日

筑波郡菅間村

染 谷 守

(坂入 清)

全 三月十五日

那珂郡上野村

石 川 重成

(野上 保)

全 三月二十五日

鹿島郡夏海村

田 口 熊太郎

(増設に依る新任者)

全 鹿島郡新宮村

(鈴木 治夫)

石 山 英雄

(海老澤 昇)

小 野 村 昇堂

(池田 義次)

井 川 邦男

(池田 義次)

袋は、例へば吾等の郷土霞浦湖畔に營む幾多の耕地整理や干拓耕地の水稲約一千町歩が、完全に育成して鎌入れし得るにあらざれば満し得ざるものである、このエネルギーこそ躍進日本の表徴であらうか。

更に神田青果市場を訪ひ今後の市場は統制物のみがその販賣に有利にして然らざるものは不利なることを聞かされた、それより築地市場も見學し、目指す内閣統計局に行く、静寂都心とも思はれざる閑地を卜して位置せる吾等の統計局。そこに親切丁寧な局員の説明を聴き、自分達の仕事の上に一段の光明を認め、辭して南の方生麥へ、キリンビール會社に馳る、時既に門限に近くスピートで麥酒の製造過程を視察し、種々の接待を受けて大満足で歸路についた、夜の京濱國道の煌々たる輝きよ、ネオンサインよ、さらば。

のであつたけれども、それは一時的の感激であり一片の感情の興奮に過ぎなかつたことは誠に口惜しい限りであつた。

○
あくる昭和四年が小票制度最初の實施で、いさゝか私共は面喰つたものだ。從來の望遠鏡的調査を一掃して、此處に革新的な實地調査が斷行されたのだから、インチキ統計屋だつた私共が、面喰つたのは當然過ぎる程當然だつたかも知れない。制度は革新せられても、それを活用する人の心が革新されなければトモ統計其物の革新なり、改造なりは實現されさうもない。結局は人の問題だ。革新されぬ私共の心は、複雑で厄介で面倒くさくつて仕方ない新制度への轉向は、思へも及ばなかつたのだ。敢然として斷行するやうな勇氣は全然なかつたのだ。
昨年よりは五分減だ、イヤ一割増だ等と云ふ机上統計で、昭和四年も五年も空しく経過して新制度は有名無實に終らんとしたが、ふとした動機から、統計と云

細則による小票調査 實施當時の思ひ出

飯岡 榮助

先進地たる千葉縣へ統計視察をしたのは昭和三年の秋だつた。それは從來の机上統計調査から、對物を中心とした小票調査への一大革新斷行の準備工作としての取扱者たる私共への、縣當局の温い心の表現だつたことと思ふ視察中、殊に心臓をいぐらるゝが如き感動を禁じ得なかつたのは、香取郡津ノ宮村の統計事務だつた。兼務の身でありながら、あれ程までに行届いた一糸亂れざるところの完備した仕事を見せつけられ、その主任者の識見手腕力量に頭がさがると同時に、統計其物に對する趣味性の裕かさにもよることゝ感激に胸打たれざるを得なかつたのである。

さうした感激に浸りつゝ歸つてきた

ふものが何んなに重大なるものであるか何んなに尊い使命を持つてゐるものであるかを、イヤと云ふ程満喫せしめられたワケである。それはある日の出来ごとだつた。尊徳翁の書を読みふけり翁の御仕法の精神を味讀すればする程、正確なる統計が御仕法にとつて、何んなに重要な役割りを演ずるかを知りぬくことが出来たことだ。

○
これはほんの一例であるが、相馬領の復興に着手する時、尊徳翁は領の御仕法を確立するために、丹念に百八十年間の統計を調べぬき其處に初めて分度をつたのであつた。百八十年間の正確なる統計からスタートした相馬領の分度は、翁の熱と共に着々として更生の道を辿ることが出来たのだ。統計は翁のすべての更生策の礎石であり素因であると思ふ。いささかも過言ではあるまいと思ふ。斯様に如何なる方針も對策も正確なる統計が最大の土臺石だと云ふ自覺と認識とを、尊徳翁

五六

井川 乙 酉	(井川 俊吉)
飯塚 操	(小松崎源次郎)
坪沼 賛 雄	(塙 東内)
全 三月三十日	多賀郡河原町
吉田 利次郎	(宮本 彌平)
全 三月三十一日	行方郡麻生町
志村 高三	(志村 新吾)
栗原 武 雄	(高崎 寛次)
小沼 信	(大盛 與重)
高寺 正 雄	(立原 善雄)
全 筑波郡小田村	
長島 和一	(青木庄一郎)
大久保 保 治	(結束 五郎)
全 四月一日	東茨城郡山根村
大津 直 行	(粉川 俊)
市 毛 隆	(加倉井久衛門)
小瀬 信 一	(谷津 傳治)
大部 武 男	(森田鐵之介)
全 東茨城郡河和田村	
大澤 豊 二	(大澤七兵衛)
福島 吉太郎	(黒崎佐喜雄)
全 西茨城郡笠間町	
成田 易之助	(成田丑之助)
全 那珂郡那珂郷村	

堀江 菊太郎	(堀江 謙)
全 久慈郡金砂村	
關 正 謙	(關 俊司)
吉澤 親 雄	(上久保孝夫)
全 久慈郡河内村	
檜 山 敬三郎	(檜山 秀雄)
和田 一郎	(和田 實義)
田所 常 雄	(石井 耕藏)
鈴木 勳	(石川力太郎)
田所 内藏雄	(田所源太郎)
田所 義 信	(石川 清見)
全 行方郡武田村	
出久根 市 彌	(成田 多重)
全 行方郡現原村	
全 行方郡秋津村	
全 平 平	(原田 惣作)
全 行方郡秋津村	
高野 賞 三	(増設に依る新任者)
長峰 眞 衛	(全)
星野 太 吉	(全)
鬼澤 義 長	(全)
飯島 仁	(全)
全 鹿島郡豊津村	
全 鹿島郡豊津村	
野口 雄 亮	(増設に依る新任者)
全 稻敷郡木原村	

五七

我が村の統計調査員

城南生

から十二分に教へられてからは、從來の投げやりな机上統計や望遠鏡的な調査方法ではあきたらず、遂には心の苦惱とならざるを得なかつた。進んでさうした統計上の罪惡(？)を清算し、第一に自己の精神を革新し、全く更生したる精神で、縣の細則により小稟調査の全部の實施をしたのは、その時だつた。それが丁度昭和六年の頃だつたと思ふ。

その頃の思出はさまざまな感想を呼び起す。何せよ初期時代であつたから随分と郡の主任の方に御心勞をかけた事もあり、微苦笑を禁じ得なかつた事や、冷汗をかゝざるを得ない失策等が、それからそれへと繪巻物をくりひろげたやうに心に甦つてくる、恥しいこと氣まりの悪いことのみだが、その中にも一種のなつかしさもあつてひとり微笑む場面がないでもない。

私共としてはその當時の思出は、まことに忘れんとして忘れる事の出来ぬ、ま

たない尊い心の記録でなければならぬ
櫻花爛漫として咲き亂れ、老若男女の群れが此處彼處に、去年の秋の水害も忘れたかのやう、酒に酔ひしれて仕だらなく樹間を遊びたわむるゝ今日此頃、まして家事が日増に忙しくなつて來たこの節期に、春季調査と大事な任務を帯びた調査員の活動はどうかと丁度土曜日を幸ひ、役場を正午迄で半休止先づ自分の大字の調査員の調査を見てやれと裏山を過ぎて畑一面の臺に出た、すると大麥小麥の青々と伸びた畑の間に地圖と實地と、とみかうみ一筆宛に調査してゐる調査員の姿を見た、君は二十六歳の青年ではあるが奇特にも花をも見ずに前にひろげた見取地圖と實地とを對照してゐる最中だ、僕は御苦勞と一聲かけると『やよい天氣で結構だねお花見ですか』と言ふので『イヤ

君たちの様子を拜見に來たのだ』と言へば『イヤ失敬々々それはお互に御苦勞だネ、丁度よい今僕は地圖と實地と全然合はんで困つてゐるのだ、鳥渡見て貰ひたい』といふ、春とは言ひ午後一時、暖かな天候に畑の間に地圖と對照しつつ調査する心勞誠に感謝する外ない、一年を通しての十圓か二十圓の薄給ながら、しかも國家の大事業たる統計とあつて斯くも熱心な調査員の心勞を思ふと實際何とも言ふ事の出来ぬ心地がする、まして若者にも似ず人の樂しく遊ぶをよそに只管統計事務に精進し、精確なる統計を纏めんとする努力、ほんたうに涙ぐましく許りであつた。

統計調査員異動の續き

- 全 四月一日 猿島郡勝鹿村
大井 浦次 (奈良芳之助)
丸山 四郎治 (小森谷良之助)
吉田 寛一郎 (小倉 新七)

- 全 全 猿島郡香取村
吉田 周助 (鈴木 万吉)
全 全 北相馬郡大野村
石塚 好重 (廣瀬 一郎)
全 全 東茨城郡綠岡村
鈴木 健男 (増設に依る新任者)
全 四月七日 結城郡西豊田村
富塚 庄左衛門 (中山 孫市)
生井 勝佐 (廣瀬 章吉)
草間 忠太郎 (國府田龜助)
高谷 勝一郎 (高谷 勝造)
中山 諒 (濱名 孝一)
飯村 喜與志 (廣瀬 不二)
全 四月八日 稻敷郡牛久村
大澤 博 (大澤 幹)
全 四月十四日 鹿島郡白鳥村
飯岡 對馬 (日向寺富七)
全 四月十五日 那珂郡大賀村
小泉 敏壽 (海老根正三)
廣木 豊之介 (廣木 長壽)
全 全 那珂郡神崎村
澤畑 與次衛門 (澤畑 一郎)
全 全 筑波郡板橋村
沖出 善次 (中島 七郎)

- 全 四月二十五日 那珂郡木崎村
郡司 長太郎 (小松崎辰藏)
前澤 龜壽 (寺門 爲藏)
全 四月二十八日 行方郡八代村
吉川 基弘 (吉川 基作)
全 全 那珂郡小瀬村
石川 定雄 (石川由之介)
全 全 猿島郡境町
加藤 米三郎 (小室 辨藏)
金子 文吉 (江崎 嘉一)
天野 元吉 (新設に依る新任者)
中村 平七 (全)
櫻井 源治 (全)
増田 甚八 (全)
小島 幸四郎 (全)
戸張 陸造 (全)
全 全 眞壁郡長讚村
市村 安平 (寺内 忠一)
全 全 眞壁郡高松村
高濱 雄四郎 (武井政四郎)
全 五月一日 鹿島郡高松村
辻 注連松 (高木 豊作)
昭和十一年四月一日 結城郡絹川村
關根 松三 (野村伸一郎)
石島 福藏 (塚原 敏正)
平澤 勇 (野村 利寛)
山中 倉藏 (森谷 勘一)

昭和十一年四月二十二日 結城郡結城町

- 小野谷 義三 (小林 好)
- 荒井 和 平 (諸 銀藏)
- 鈴木 徳一 郎 (山田 吉平)
- 白井 平一 郎 (信末元三郎)
- 青 山 清 八 (松持治郎吉)
- 全四月一日 西茨城郡南山内村
- 藤 家 丑 松 (池田 寅吉)
- 坪 山 兵 吾 (榎村留之介)
- 藤 岡 正 明 (谷田部捨松)
- 青 木 重 市 郎 (森田 豊吉)
- 高 澤 幸 藏 (原田 種憲)
- 全 全 行方郡津澄村
- 平 山 靜 (人見 龍爾)
- 全 全 北相馬郡大井澤村
- 飯 田 正 一 (飯田 富)
- 全四月二十五日 眞壁郡中村
- 鐵砲塚 右 (石崎 登市)
- 早 瀬 傳 一 郎 (鈴木岩太郎)
- 全 全 北相馬郡井野村
- 中 村 正 雄 (増設に依る新任者)
- 猪 阪 丈 一 (全)
- 天 津 要 野 (全)
- 齋 藤 正 一 (全)
- 全四月二十八日 筑波郡上郷村
- 岩 田 幸之助 (田村八十松)
- 飯 島 清一郎 (伊藤幸一郎)
- 光 田 直 (澤邊 菊二)



短 歌

丹 四 郎 選

『春雜詠』『野原』

〔賞〕

新治郡藤澤村 愛村 耕 夫
芋床に芋伏せ居れば暖かき春日の照りに汗かきにけり
次ぎ／＼に板橋見えて加藤洲の舟路はよしも柳朋えつつ
北相馬郡東文間村 堀 越 正 直
季節風吹き變る日も近からし木の芽漸く青める見れば
久慈郡小里村 吉村 失名生
駒方の立ちて賑ふ白河の町に宿りて馬具買ひにけり
大原村 來 栖 浩太郎
靜なる木の芽の村となりけり夜毎に競ふ田蛙のこゑ
猿島郡幸島村 小 倉 白 雨
朝かけてそぞろ歩める春野原足にまかせて遠くも來つる
草餅を搗いて欲しやとそこばくの蓬摘み來し吾子の面はも
北相馬郡東文間村 宵 雪 迂 人
春の陽のひかりかぎりふ青野邊に草食む牛の長鳴きぞする

寄 贈 圖 書

- 靜岡縣統計書一、二、四編 靜岡縣 內閣統計局
- 賃銀物價統計月報 靜岡縣統計課
- 靜岡縣勢要覽 靜岡縣統計課
- 靜岡縣の織物 靜岡縣統計課
- 靜岡縣の教育 靜岡縣統計課
- 靜岡縣產業要覽 靜岡縣統計課
- 昭和十年宮城縣參事統計表 宮城縣總務部統計課
- 全 米統計書 全 上
- 全 蠶桑統計 全 上
- 職業紹介公報 中央總務部統計課
- 卸貨物價月報 商工大臣官房統計課
- 新資料月報 內閣統計局
- 浪華の鏡 大阪府統計協會
- 統計上から大阪見れば 大阪府 大阪府統計課
- 岐阜の生産と公課 岐阜縣統計課
- 東京府工場要覽 東京府總務部調査課
- 昭和十年米作統計 全 上
- 全夏秋蠶統計 全 上
- 統計研究會誌 京都府統計協會
- 兵庫統計 兵庫縣統計協會
- 賃銀統計月報 商工大臣官房統計課
- 昭和十年兵庫縣夏秋蠶統計 兵庫縣總務部調査課
- 全米統計表 全 上
- 統計選集 柳澤統計研究所
- 大原社會問題研究所雜誌 大原社會問題研究所
- 兵庫縣會社一覽 兵庫縣總務部調査課
- 關東局人口動態統計 關東局
- 小貨物價月報 商工大臣官房統計課
- 愛知縣勢要覽 愛知縣 愛知縣統計課
- 福岡縣家畜統計書 福岡縣 福岡縣統計課
- 統計界(三月號) 東京株式取引所統計月報
- 東京株式取引所統計月報 東京株式取引所調査課
- 會社統計表 商工大臣官房統計課
- 昭和九年死因統計 內閣統計局
- 全拓務統計 拓務大臣官房文書課
- 高知縣統計書第一編 高知縣 高知縣統計課
- 昭和十年米統計 第六十一回主稅局統計年報書
- 調查月報 大藏省主稅局
- 宮城縣統計書第三編 宮城縣總務部統計課

多賀郡南中郷村 綠川 欣一郎
あかとときと戸を操り見れば幾月の障子にうつる櫻の影あり
北相馬 文 流水
種蒔きて畦に憩へば水害の去年の思ひの目に顯ちにけり
行方郡武田村 境 勇
山中の木下明りににほひつゝ今を盛りの春蘭の花
鹿島郡中野村 大川 貞一
早春の風まだ寒し日あたりのよろしきところ蓬朋えたり
西山内村福原 森 愁子
池の面に幽けく降れる春の雨なごみごろにしばし見て居り
久慈郡桑和田村 豊田 貞次
夕靄につつまれにつゝばやけ來し山邊閑けく春の雨降る
稻敷郡生板村 大野 芳雄
まちわびて花見む人の心にはさはらざりけり春のきり雨
○ 四 郎
吾子看る病室の玻璃戸に觸りにつゝ落ち來る春の大き雪片
そよ吹く風寒からず寒竹の弾く夕日も春のものなり

次問題 『夏雜詠』

十首以内 締切 六月二十日



俳句

前田猶春選

題『春風』『柳』

○ 雨はれの湖畔明るき柳かな 那珂郡大宮町 駒田 蓑人

○ 春風や散るともなしに簾の梅 新治郡藤澤村 柳田 華水

○ 春風や紅の乾ける・繪具皿 那珂郡藤郷村 高部 吞風子

○ 貸舟の塗り替へ了へし柳かな 同 青木 青風

○ 鹿島郡息栖村 立花 嘉平

○ かたまりて峰の雲白し春の風 久慈郡久慈町 小川 湖村

○ 青柳や四手ほしたる宿の庭 北相馬郡高野村 倉持 公太郎

○ 芽柳に川風つよき日暮かな

○ 大廣間あけ放したり春の風 鹿島郡中野村 大川 貞

○ 垣津田や柳うつして水青き 那珂郡藤郷村 國松 春風

○ 春の夜の風窓をうつ宿直かな 同 村 岡山 北星

○ 帆をあげて走る舟あり春の風 那珂郡佐野村 飛田 松花

〔選者曰く〕題そのものが陳腐なためか今月は佳句殆んど無く従つて贈賞の價値なし、自分の句は如何してダメか、研究指導をうけたい方は二錢切手五枚封入左記選者宛送稿されまし。

水戸市二ノ町 前田猶春宛

次の課題

題 『鮎』『新樹』通じて十句迄

締切 七月一日限り

用紙 半紙二ツ折

六二

○ 芽柳や軒すれくに通ふ船 行方郡武田村 鳥次 ゆた香

○ 鳴きやみて土ふむ禽や春の風 稲敷郡君原村 大越 馨

○ 校庭の國旗靜かに春の風 西茨城郡大原村 來栖 浩太郎

○ 春風や乾くともなき潦 新治郡瓦會村 増子 よし女

○ 春風に女童のあそべる堤かな 西茨城郡大池田村 高野 高亮

○ 月出てゝ影たちなほる柳かな 行方郡延方村 黒須 惠三郎

○ 棧橋の柳の芽ぐむ港かな 鹿島郡大同村 西 浦子

○ 苗代に水張れば柳影をもつ 稲敷郡君原村 湖南 霞翠

○ 春風や豚舎の軒の抜きふくべ 猿島郡幸島村 小倉 白雨



川柳

山中緋郎選

題『視察』

○ 視察團みな笑はれる 國訛り 西茨城郡大池田村 高野 高亮

○ 視察費へ足して手土産買つて来る 京都市下京區 宇の狸 公三

○ 言ひ合つた様に褒めてく視察團 鹿島郡豊郷村 林 喜平

○ トランクは名物ばかり視察團 筑波郡島名村 鯉淵 浩花

○ 視察團夜は夜で別にあるプラン 長野市外榮村 小林 琴の舎

六三

東京市足立區 島村 夢良磨
視察した通りに言へぬ事も出来
京城府黄金町 小島 大口坊
外人の觀察へ足らぬ 人力車
那珂郡大宮町 駒田 義人
朝寝する視察疲れを子が笑ひ
東京市板橋區 田中 凡九
視察團貧民窟を派手に抜け
東京市日本橋區 渡邊 欽乃
新歸朝 あちらのことをはめぢぎり
横濱市磯子區 平井 痴翁
模範村觀察へ鉄を休めない
八王子市八日町 村田 柳路
視察團女工の手先こわばらせ
岡山市下石川 西尾 彩壺
觀光と別に忙しい花めぐり

視察團同情だけはして歸り
大阪市泉北郡 宮崎 白夢
名古屋市 加藤 八白
非常時へ視察くと氣が尖り
東京市王子區 日野 櫻笑子
視察團みな通譯を頼りきり
行方郡武田村 鳥次 とり坊
視察團今日も埃りを揚げて来る
逸 秀
行樂の春へ視察を決議する
西茨城郡栄戸町 内桶 柳水

次の課題 『座談會』

締切 六月二十日 葉書一人五句以内
宛名 茨城縣廳内統計協會
賞 三才粗品を呈す

投稿 歡迎

- 一、種類に制限ありません（論説、所感、體驗實記、質疑、文藝其の他）奮つて投稿されたい佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文字は明瞭に書かれたい。
- 一、原稿には住所氏名を明記すること。（但し誌上の匿名は差支ありません）
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一任されたい。
- 一、七月號は六月二十日迄に送付のこと。
- 一、原稿は一切返送しません。
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨城縣統計協會編輯部」宛のこと。

寄贈圖書

鐵道統計資料第二、三編
統計の山形
北海道統計
昭和九年簡易保險局統計年報
最近の和歌山縣勢
綿織物及絹織物年報
關東局第二十九統計書
關東局統計要覽
長野縣統計時報
昭和九年東京府會社要覽
昭和九年滋賀縣統計書
群馬縣勢要覽
大原社會問題研究所誌
鹿兒島縣勢要覽
統計（三、四月兩號）
富山縣勢要覽
茶統計表
米麥及蘭產額統計表
加奈陀ニ於ケル農林統計調査
米統計表
道府縣別米累年統計表
三重縣勢要覽
資源（五月號）
山形縣統計協會
北海道統計協會
簡易保險局
和歌山縣
商工大臣官房統計課
關東局
全上
長野縣統計協會
東京府總務部調査課
滋賀縣
群馬縣
大原社會問題研究所
鹿兒島縣
千葉縣統計協會
富山縣
農林大臣官房統計課
全上
農林大臣官房統計課
全上
三重縣
資源局

本誌廣告料 値下斷行

大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

○
而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて、以て初期の目的に副ふことが出來ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

◆特別

一頁表紙金貳拾圓なり金拾五圓に變更
表裏金拾五圓を金八圓に
半頁同金拾五圓を金八圓に

◆普通

一頁 金拾圓を金八圓に
半頁 金五圓を金四圓に
四分ノ一金 參圓を金貳圓に
▼同一廣告を引續き二回以上のときは
一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。

▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。

▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳

茨城縣統計協會

編輯後記

新緑、まことに心よい季節となつた、緑を踏んで……とか何とか鐵道省は、緑を知らぬ都會の人々を郊外におびき出さうと大げさに廣告してゐるが、我等の農人諸君は緑を踏んで朝から晩まで躍動してゐるのだ躍進日本の眞の氣魄は諸君によつてはじめて味はれるのだと思ふ。

×
『茨城統計』また綠に注ぐ五月の太陽のすがくしい光りに似たる、なごやかな氣持で諸君にまみえようと努めたが、なか／＼思ふやうにならないのがおもはゆい。

×
けれども今度は讀者諸君から、いろ／＼

有益な興味ある原稿を澤山頂戴したのが嬉しい、成るべく多數に輯録したいつもりであるが、紙面に限りがあつて漸く其の一部しか載せ得なかつた、併し次號なり、又その次なりへ出來るだけ掲載する考へであるから、御諒承を願うと同時に、更に大いに投稿されますやう切望する

×
長畑統計官の農作物統計論はいよ／＼本論に入り、引證該博、統計關係者にとりては實に珠玉の大文字である、統計官の御厚意を深謝すると共に、統計關係者に對し切に精讀を望んで己まない。(富岡如夢)

昭和十一年五月十三日印刷
昭和十一年五月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳
茨城縣統計協會内

發行兼 編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會